

幼 児 の 教 育

第四十九卷

第十一號



十一月號

日本幼稚園協會

保 育 用 品

自由画帳 定價二〇圓

送料6圓、40冊まで55圓

おさいく帳 定價二〇圓

送料6圓、50冊まで55圓

大判ぬりえ 定價三〇圓

送料6圓、40冊まで55圓

ぬりえ(初級) 定價二五圓

送料6圓、50冊まで55圓

ぬりえ(上級) 定價二五圓

日本幼稚園協會編

えとぬりえ 定價三五圓

送料6圓、40冊まで55圓

御道具箱 定價五〇圓

送料 5箱まで35圓

特製折紙 4寸色枚把 定價二五圓

送料十把まで35圓

特製折紙 5寸色枚把 定價三〇圓

送料十把まで35圓

大判模造色紙 定價三〇圓

53cm x 38cm 十色一〇〇枚

床上積木

大	基尺 7 cm,	容積 32 $\overline{\text{cm}}^3$	定價 1800 圓	〒150 圓
中	基尺 5 cm,	容積 25 $\overline{\text{cm}}^3$	定價 1500 圓	〒115 圓
小	基尺 3 cm,	容積 13 $\overline{\text{cm}}^3$	定價 450 圓	〒35 圓

一箱の積木數約 64 箇 形は、基本的の形を網羅して居ります。

砂場用具

砂 型 (4 種入り 150 圓, 〒35 圓)

シャベル (25圓 〒30ヶまで35圓)

バケツ (60圓 〒8ヶまで35圓)

ふるい (60圓 〒15ヶまで35圓)

トンネル (80圓 〒3ヶノ35圓) 汽 車 (80圓〒10ヶまで35圓)

自動車 (60圓 〒10ヶノ35圓) 客 車 (80圓〒8ヶまで35圓)

紙芝居

定價 250 圓, 袋入り, 〒35 圓

第1集	みみちやんとおおかみ	第5集	可愛い先生
第2集	どの子がいい子	第6集	おねずさんのなあちやん
第3集	お母さんはどこえ	第7集	お魚にたべられた人
第4集	親指姫		

運動遊具

(圖・解説入りカタログ進呈)

ジャングルジム, 滑り臺, ブランコ, 置きブランコ, 波動回転塔, 共同ジャングル, 大鼓梯子, メリーゴーラウンド, 廻てん椅子, 等です。

發行所

千代田區神田
神保町2の4

フレーベル館保育用品株式会社

飯巻口座
東京 38171

目 次

幼稚園保育所の新しい教師	小林操	(2)
母の育児態度について(二)	和田典子	(9)
カリキュラム論	鈴木信政	(16)
アメリカ童話から(五)	松原至大	(19)
幼稚園小学校研究集會參加報告(三)	徳久孝	(24)
福岡大會記	秋田美子	(30)
子供讚歌(一三)	倉橋惣三	(32)
(講話) 幼児の健康保育(六)	平井信義	(40)
記 録		(45)
全國佛敎保育大會		
幼稚園小學校研究集會(北海道ブロック)		
保母指導者協議會		
會 か ら		(48)



幼稚園の新しい教師

東京都保育會幹事長
東京都港區南山幼稚園長

小林操

新しい先生の在りかたについて、とやかく言うことは私の任ではないことをよく知つてゐる。まして幼稚園や保育所の先生方について書くことは尙更その任でないことをはつきり知つてゐる。併しながら私には、私なりの自己反省があり、自己反省から歸納した、今の時代における先生が如何に在るべきか、如何に在らねばならないかという一應の目やすを持つてゐる。それは大學の先生でも、小學校の先生でも、幼稚園や保育所の先生でも、いやしくも子供の指導に直接携わるものには一貫した心構の必要であることはいうまでもないが、こゝでは幼稚園保育所の新しい先生が如何に在り如何に在らねばならぬかという課題を旨めて、日頃私の直面した現實の中から書きとどめたメモを披萃して見よう。

(1)

「幼児の教育」には、既に倉橋先生を始め、その他の多くの先生方によつて、新しい時代の教師の在り方については、毎號私たちは指導を受けてゐる。殊に倉橋先生の新教師論（私

が勝手にそう呼んだ名前である）は、教師論と銘を打たないまことに滋味たつぶりの新教師論であると、私は毎號を楽しんで再讀してゐる。同じ本誌に私の拙いメモを書きつらねることはまことにおもはゆく思う。が、しばらく我慢して、一行でも一句でも共鳴していただける個所がありとすれば私の望外の喜びである。

こゝ數年來アメリカから來た教育指導者たちは、教育の問題を説けば必ず教師の問題にふれ、現職教育の必要を力説してゐるので、アメリカで考えられている望ましい教師としての素養については既に御承知のことゝ思うが、教育者に望まれる素養の根本要目は、國によつてそんなに違ふべき筈のものではない。アメリカのクラムビー女史は、保育者に必要な素養として、次に示すような極めて具體的な十二項目を擧げている。これを見れば幼児教育に當る教師の素養として必要なものは殆ど網羅されてゐると思われるので、話を進める手がかりに列記して見よう。

- 1 強い忍耐力を持つてゐること
 - 2 樂天主義者であること
 - 3 快活な素質をもつてゐること
 - 4 幼児の心理を理解することのできる能力をもつてゐること——兒童心理學の修養を積んでゐること
 - 5 子供に對する深い愛情をもつてゐること
 - 6 言語教育についての知識と技術とをもつてゐること——子供に模範を示すことのできる能力をもつてゐること
 - 7 單純な答へにも眞理を示すことのできる豊富な知識をもつてゐること
 - 8 身だしなみがよくて、明るい感じの服裝をしてゐること
 - 9 豊富な童話や童謡を知つてゐること
 - 10 手技に熟達してゐること
 - 11 音楽にたん能であること
 - 12 健康であること——子供に必要な保健の助手になること
- こゝにあげられた十二の項目について、何れも十二分に充たされるということは容易ではない。容易でないどころか殆ど困難であるかも知れないが、しかし私たちは一步一步これに近づきやがてはこれに到達する氣持を持ちつづける所にいわゆる現職教育の實踐があり、日々に新しい教師たり得るのである。
- 教師の性格なり、素養なりを考へる場合には、小學校であらうと幼稚園であらうと、或は又大學であらうと、對兒童、

對幼兒、對學生の問題として考へて見ることも必要である。やがてそれは私たち自身の最も具體的な反省の資料となる。幼兒には幼兒なりの、兒童には兒童なりの、それぞれ子供の立場から教師に對する要求があつて、それはいづれの段階の子供にも共通ないくつかの項目を考へることが出来る。教師はかくあらねばならぬと、教師自身や大人の側からのみの要求を充たすだけではまだ十分ではない。一體子供は教師に何を求めているかを知つてそこからもわれわれ自身の在り方を考へなくてはならない。子供が教師に望むものの主なものとして次の諸項をあげることが出来る。

- 1 愛情が豊かで優しく、いつもにこにこしてゐる先生
 - 2 明朗快活で、ユーモアに富んでゐる先生
 - 3 親切で公平な先生
 - 4 勤勉で誠實な先生
 - 5 自由のうちにも規律節制を守る先生
 - 6 寛大のうちにも權威を持つ先生
 - 7 熱心に行届いた指導を行う先生
 - 8 子供が好きで、子供を愛し、よく理解してゐる先生
 - 9 品があり、言語態度の洗練された先生
 - 10 子供と一體になつてよく助力し得る先生
- 教師に對する子供の調査によればもつと多くの項目が出て來るが、以上の十項目で殆ど盡されてゐると見てよ。

(2)

子供の個性は個々多様であつてそれぞれの方向に發展して行く。この種々様々の個性を完全に助成發達させることが本來の任務である。従つて多數の個性を同時に指導するためには、まず多數の個性を十分に理解することが、すべての保育活動の基礎になる。多數の個性をそれぞれ理解することはなかなか容易ではないが、これにできるだけの努力を注がなくてはならない。そのためには、教師の性格は何よりも圓滿であり、子供に接してはいかなる場合でも一視同仁であり、公平無視でなくてはならない。さらにそのためには、常に子供と一體になり、或は一體になり得る性格であることが、すべての性格に先行する最大のものである。子供の嫌いな、子供に對しておこりつばい教師、神系質で憂うつな表情をしている教師、がんで親しみにくい教師等は決して、子供に好かれない。こうした教師は子供にとつて大きな迷惑な教師である。

子供が望む教師の性格について考えて見たが、それだけに新しい教師の在り方を決定することはできない。その他にいろいろの要素が加えられねばならない。勿論前記の諸項目と重複する點もあるが、一應次のような事項について考察して見よう。

1 人格のすぐれている先生

教師の子供に及ぼす影響がその人格の如何にあることは今更いうまでもない。教育は教師の人格の力によつて遂行せられない限り殆ど無力であるとさえ極言できる。

2 健康であること

健康はあらゆる人間活動の根源である。子供は一生のうち最も活動的な時機であるだけに、子供と一体的な生活指導を自ずと教師が旺盛な元氣をもつて、生き生きとした態度で子供に接しなくてはならない。單に病氣をしないというだけではいけない。學習にも運動にも子供と一體になつて活動し得る活力をもつ健康體でなくてはならない。

3 識見をもつ先生

從來の私たちに、最も缺けていたものはこの識見であつた幼稚園なり保育所が社會から個立して運營され得た頃は、小さな數にとじこもつていても事はすんだかもしれないが、今日私たちが考えているように社會との關連性を重視してくれば特に新しい時代の教師が、廣い識見をもたなくては困る。政治も、經濟も、文化もすべてが重要な子供たちの環境をなす要素なのである。

4 經驗の深い先生

理論と知識だけでは生きた子供の指導はできない。教育は理論ではなく實踐である。多種多様の個性をもつ子供たちについて、教育の實踐に當つて、具體的な經驗を生かして常に新しい計畫をたて、それを遂行しなくてはならない。

5 實踐力のある先生

從來ともすれば教育の理論と實踐とがうまく溶け合わなかつたうらみがあつた。理論は高級なもので實踐はつまらぬものなどという考え方があるとすれば大きな間違ひである。

實踐を通しての理論であり、理論を實踐に移して見て始めて動かぬものとなるのである。

6 趣味をもつ先生

たゞ趣味といつても範圍は漠としており、はつきりしないかも知れないが、競技や運動をも含めて、趣味の豊かなことが望ましい。子供たちは多種多様な個性をもつているのと同様、それ／＼の趣味をもつているので、これを指導するにはまず教師が、できるだけ廣く深い趣味をもつことが必要である。

7 家庭生活の健全に行われている先生

人格のすぐれた教師の項に包含される事柄かもしれないが特に家庭生活が健全で圓滿に行われていて、よき夫、よき妻、よき兄であり、よき姉であることが、教師として大切な要素である。

以上私は新しい教師としての一般的性格や素養の項目を擧げるのにあまり多くの紙面を費し過ぎたが、幼稚園や保育所の新しい先生も、この基本的條項には變りない。この基本線の上に立つて具體的な面を考察して見よう。

(3)

私は平素幼稚園保育所の先生方が、全く自己を忘れての献身的な熱意に對して、お世辭でなく心の底から敬意を表す。それでいてこれから申し述べようとすする事柄には、時に暴言、不遜と感じ取られる點があるかもしれないが、その點

は幼児教育の重要性に思いを致されて寛恕願いたう。

幼児教育の現状に立つての自己反省

日本における幼児教育は、相當永い歴史をもつていながらその發達は、まことに遅々たるもので、戦前までは、何か一種の特種教育であるかのような觀方が社會一般の通念かと思われる程、限定された狭い考えかたであつたために、その進歩發達は勢い制約せられて來た。戦後幼稚園、保育所の再開に伴つて、幼児教育の問題が取上げられ、幼稚園においては學校教育法に學校としての法的根據が明示せられ、保育所に於ては兒童福祉法に幼児保育の規定が明かにせられ、こゝに新しい幼児教育の方向が基礎付られたことは御承知の通りである。従つて幼児教育の重要性は一般社會にも多少づつなりとも認識せられる方向に進んでいる。そこで幼児教育に携わつていいる私達は一體これいゝのかとお互が厳しく内省して見なくてはならない現實に直面している。すでに内省に立脚して新しい教師として立派に出發している數多くの同志もしてはいるが、若しも安易な氣持で、自己の教養の現状に安住して戦前と大して變らない毎日を送つていいるものがあるとすれば、今日の保育の担当者としては不適格者であり、幼児に對しては恥ずべき教師であるといわなくてはならない。これは私のいう新らしい教師に對しては正に舊い教師であつて、厳しい自己反省によつて再出發をするか、それが出來なければ止めるより仕方がないであらう。

戦後教育が再検討せられて教育の民主化を目ざした研究と實踐が全國の教師によつて、教育關係者によつて推進せられるようになったとき、「幼稚園や保育所は戦前から生活指導を中心とし、幼児の興味と關心を考え、自主性を重んじて、いわゆる民主的な方法をとつて來ていたので、今更切換える必要はない」とか「幼稚園や保育所は前々から今日の小學校の一、二年のやつてゐるような方法をやつていたので」という聲、又はこれに類する聲を耳にしたものは私だけではあるまい。併しこゝに私たち幼児教育者が警戒しなくてはならない大きなおとし穴がある。というのは方法上の形式が相似してゐるからといつて、前述の結論を出したとすれば甚だ皮相といはねばならない。形式上に大差のないことは認められるとしても、實質的に大きな距りのあることを忘れたり、根本的な思想の點に想到しなかつたとすれば、それはすべての保育活動を誤らせる結果になる。私たちは今日決して安易な氣持になつたり、いゝ氣持になつたりしては大變である。お互にきびしく反省しても反省しすぎることはない、幼児教育を教育全體との關連において、社會全般との關連において十分に反省して出發したいと思う。

種々多様な個性の理解とその能力の獲得

こゝで私の言いたいことは「それぞれの子供を、それぞれの個性に従つてよく知る」ということ、それを知るための

能力として「子供の心理發達」を十分に研究することである。わかりきつたことを大仰に言つて不愉快な思ひを起させるかもしれないが、これは言うは易く實行は決して容易ではないが故に大仰に言うのである。個性を無視した、無視しないまでも不用意に行われるいわゆる一齊保育式の方法が今日尙行われてゐると思われない。併し個々の個性が十分に把握せられて、その上に即應した保育が行われてゐるかどうか。程度の開きは相當にあらう。その線に努力は拂われてゐるであらう。しかし個性を知り子供を理解するための基礎的能力が得られてゐるか。子供の發達に關する心理的知識が勉強せられてゐるかの問題になると、必ずしも十分といふことは出來ない。時間的餘裕のない程保育の實際に毎日を送つてゐる幼稚園や保育所の先生方に對して、心理學の勉強が足りない、子供の觀察と理解が足りないといふのは、苛酷のように思われるかもしれないが、こゝでは自己反省による再出發の切換時であることを考えれば苦しくともお互が頑張つて努めなくてはなるまい。時間の餘裕がなかつたら、毎日の保育の計畫や、これに附隨する事務處理の方面を能率化し、合理化するための再検討も必要な場合があるだらう。あるいは研究會の持ち方や、研究の方法等についても工夫を要する場合もあらうと思ふ。何れにしても「子供をよく知る」ことなくして幼児指導の效果は擧げられないし「心理學の知識」なくしては子供をよく知ることができない。苦しくともお互いに努めたいと思ふ。

計畫性のある保育實踐

今迄の幼稚園や保育所に計畫性がなかつたとは言われないが、時には保育の實際に追われて計畫を練る時間がないために、やむを得ず計畫のない幾日かがあつたり、いわゆる行きあたりばつたりの保育實踐が行われていたりしたが、絶無だつたと言ひ切ることのできない悲しい事實がありはしなかつたか。——これが原因や理由については薄情のようだが今はふれない。——若しあつたとすれば昨日まで許されたとしても明日からは許されないとと思う。計畫のない教育は學校教育ではない。従つて計畫のない保育は幼稚園や保育所の幼児教育ではあり得ないのである。

従來幼稚園や保育所においては比較的計畫が立てにくい事情にあつたかもしれないが、すべての保育活動にはすべて計畫をもつていきたい。保育の効果を擧げるか擧げないかは既に計畫のたて方において決定しているとさえ考えられる。用意周到な計畫をたてることは保育効果を擧げ得るばかりでなく保育の能率をもあげることになる。計畫を立てることを面倒がるようでは眞の幼児指導者というわけにはいかない。

特に教育計畫（カリキュラム）の設定

前項には運営の全般に計畫性を要求したのであるが、特に重複のきらいはあるけれども教育計畫についても、お互いが十二分の關心を持ちたい。新しい教師とカリキュラムの關係については特に書き立てる必要はない程、全國の先生方が熱

心に研究し實踐している。たゞ私の言いたいことは、どんなに立派なカリキュラムが出来ても、それが實踐とのつながりのないものであつては何の價値もないという平凡なことである。あえて平凡なことを書き立てる理由は、現實において「カリキュラムは一應つくつて見ましたが、實際はその通りやつているわけではありません」という話をきき、事實を耳にすることが相當にあるからである。貧しくとも毎日の保育實踐に活用される計畫であり、その計畫が實踐を通して常に改められてゆく、計畫と實踐とが密着したものでなくてはならないと私は信じている。どこかで出来た計畫をそのまま、或は多少補正して一應作つておく式のカリキュラムだつたら無駄な努力と言われても仕方あるまい。子供の生活を中心に環境を考え、地域社會を考慮して、眞に活用の出来る計畫をたて、實踐に努力しよう。

保育効果の判定と實踐記録

實踐記録の中には當然効果の判定も含まれて来るが、従來幼稚園、保育所で、保育實踐の熱意と努力に比べて劣つていたものはこの實踐記録ではなかつただろうか。

効果判定が常に計畫の反省と新しい計畫への資料となり、子供の個別的な指導の一つのよりどころになると同様に、實踐記録もまた保育全般の明日へのよき資料となる。この意味で私は實踐記録を非常に重視し、非常に尊重したい。これも時間的に中々容易でないという聲の出ることは承知してい

るが、何とか時間の工夫をして丹念に日々の記録を纏めこれを次の計畫に活用していききたいものである。

教師自身の社會性と教養

又してもわかりきつたことに及んで恐縮であるが、幼稚園や保育所の先生は殆ど大部分が女性であり、しかも若い人たちが多い。従つて幼稚園や保育所は對象となる子供が小さいこと、相俟つて、何か社會から遠ざかつた別天地のような考え方が、社會一般にもあり、先生方自身もそう思つているものがないでもない。これではいけない。子供は常に社會の子供である。幼稚園や保育所も一つの社會である。子供達に社會性をもたせ、社會的協調性を指導しようとする。保育機關において、その指導者である先生はまず自分自身も社會人ではなくてはならない。社會と没交渉であることを是認しているような態度ではいけない。それには、政治も經濟も文化も一通りは心得ているだけの教養を積むことを忘れてはならない。これは新しい教師として大切な素養であることを十分認識して、機會ある毎に自己研修を重ねて行きたい。スポーツも、映畫も、一通りは心得ていたい。綜合雜誌の一、二冊には目を通したい。幼稚園も保育所も決して別世界ではなく、社會生活の出発点であり、社會の中の社會なのである。先生方が若い故に社會から孤立であつていゝ筈はなく、社會に無關心であつてよいわけではない。まず自らを社會人としての教養と見識をもつように努めたいものである。

(4)

私は最初にも言つたように、私のメモの中から色々と雜然と書きつらねて來たが、紙面の都合でもうやめなくてはならない。まだ新しい教師として擧げたい幾つかの項目が考えられるが、最後に、幼稚園、保育所と小學校との關連について述べたい。從來——今日でも——幼稚園保育所の先生方からは「保育効果が小學校に入學してこわされてしまふ」という聲をよく聞かされ、小學校の先生方からは「幼稚園や保育所から來た子供は落つきがなくて取扱いにくゝて困る」という聲をかかされる。どちらの聲が眞實であるかはしばらくおくとして、こゝに大きな問題のあることは明らかである。幼児（幼稚園、保育所の子供）と小學校一、二年の子供との關連の問題が残されている。今後この問題については關係者によつて十分研究してもらいたい。たゞ新しい先生としては小學校の教育の學習の實際を見たり、小學校低學年の教科書に一通り目を通したりして、幼稚園から大學まで一貫した教育計畫のうちの一環としての幼稚園を考え、小學校を考え、更にこの兩者の關連について常に關心をもつようにしたいものである。勿論小學校低學年の先生が、幼稚園や保育所の保育の實際を參觀し、理解してもらふことも大切であるがこゝにはふれない。

お互いに研修して新しい教師として幼児の指導に専念することを念願してやまない。

母の育児態度について——(三)

——母親の観た吾が子の理想像——

お茶の水女子大學
兒童研究室

和田典子



四、調査結果

理想像として十二の假定像を示し五つを品等選擇してもらった結果は次の如くであつた。

(い) 各像の得點

- イ、頭がよく勉強がよくでき意見の發表の上手な子 — 九・八%
- ロ、體が丈夫で手先が器用で運動や遊戯のよくできる子 — 七・六%
- ハ、常に身綺麗にして容姿がすぐれた立派な子 — 二・二%
- ニ、美しいものを好み、音楽や圖畫などの美しいものその他美しいものを見わけるのが正しくて鋭い子 — 三・二%
- ホ、心がひろくて人の言うことをよく受入れ落着いている子 — 一五・五%
- ヘ、仕事に熱心でよく働き骨惜みしないで怠けない子 — 一五・五%
- ト、知識が豊富でそれを應用する力があり、よく工夫し、物事の判斷が正しく自分で考え計畫的な行いをする子 — 一一・〇%
- チ、誰にでも親切で思いやりがありやさしい子 — 一四・〇%
- リ、人柄が朗らかではきくして面白いかことを言う子 — 一一・九%
- ヌ、他人と親しみ我儘なことをしないで仲良く一諸に力を合せてする子 — 一四・六%
- ル、自分の行いがしつかりして他人との約束は必ず守りどんなことでも責任を守り規則などをよく守る子 — 一五・八%
- オ、學級のことや皆のことによく骨折り、皆のためによく働き、自分のことより他人のことを考え、他人のためになる子 — 一一・五%
- キ、自分のことより他人のことを考え、他人のためになる子 — 二・九%

である。これによると、

(ホ)、心がひろく人の言うことをよく受入れ落ちついている子。

という理想像は總點の内一五・三%を占め最高位にある。母親たちが寛容、鷹揚など雅量のある性格を好み、情緒的安定性を第一にとり上げている事實は首肯できるが、この性格に積極性の見られないのが物足りない。次は、

(ト)、知識が豊富で物を應用する力があり、よく工夫し、物事の判断が正しく自分で考え計畫的な行いをする子。

——一四・〇%

である。このように効用性の高い現實生活に直接役立つ特性が選ばれるのは經濟生活に深い關係を持つ母親たちの日常から必然的に求められるものなのである。この像は(ホ)項の消極性に反しきわめて積極性を持つている。第三位は、(チ)、誰にでも親切で思いやりがありやさしい子。

——一一・九%

である。こうした愛情型の像は母親達にとつてはやはり大切な見落せぬものなのである。

等四位にとり上げられたのは、

(ル)、自分の行いがしつかりしていて他人との約束を必ず守りどんな事でも責任を守り規則などよく守る子。

——一一・五%

である、この像は社會生活への適應を特質としている。その他の順位は、

(ハ)、仕事に熱心でよく働き怠けない子、の一一・〇%ついで(イ)、(ロ)、(ヌ)、(リ)、(ニ)、(オ)、(ハ)、(ヌ)、(オ)となつて、例えば(ヌ)、他人と親しみ我儘なことをしないうで仲良く一諸に力を合せてする子。とか、(オ)、學級の事や皆のことによく骨折り、皆のためによく働き、自分のことより他人のことを考え他人のためになる子。などの如く積極的な社會的性の像は省られていない。

(ろ) 兒童の理想像

前述した後藤氏の『兒童の假理想の兒童』について検討してみると、小中學生の年令にある兒童は次のような選擇をしている。(註)第七回應用心理學會に於て發表されたグラフによる。]

しかし、彼等の選擇には年令による差異が相當著しいのでこゝでは小學校一年、五年、及び中學三年級の兒童のものを抽出して調べてみることにした。まづ一年生では、

- ① (イ)頭がよくて勉強がよく出来、意見の發表の上手な子
 - ② (ト)知識が豊富でそれを應用する力があり……
 - ③ (ヌ)他人と親しみ我儘なことを……
- の順であり各像の得點が極めて近似している。五年生になると、
- ① (オ)學級のことや皆の事によく骨折り……
 - ② (イ)頭がよくて勉強がよくでき……
 - ③ (チ)誰にでも親切で思いやりがあり……

となり學級生活と關係深い特性が高く評價されている。又、(ロ)、體が丈夫で手先が器用で、運動や遊戲のよく出来る子は第四位に位し Gang age とされるこの時代の身體的、行動的な生活がうかがわれる。そして各像の得點の差異がやゝ明瞭になり初めている。中學三年ではこれがいよゝ明白に現れその集團の評價態度の方向が把握できるよになつてくる、その順位は、

- ① (ト)知識が豊富でそれを應用する……
 - ② (ル)自分の行いが正しく……
 - ③ (オ)學級のことや皆のことに……
- で、實際的、積極的、社會的である。又母親では最上位を得た、

(ホ)、心がひろく人の言うことを受入れ落ちついている子は、五年でも中學三年でも問題にされていなが、之に反して母親に等閑視されていた。

(オ)、學級の事や皆のことによく骨折り……の得點は年令と共に漸増する傾向がみられ、こうした社會的關心が年令と共に増加することは彼等の發達と關係深いもののあることが知られる。

以上、十二の理想像の個々について考えてみたが、これらを一層簡明なものとするために各像をその特質によつて四群に集約して検討してみることにする。

(は) 母親の理想像

(イ)、(ロ)、(ハ)の如く素質的、生得的な特質をもつ理想像群を假に「素質的像」と名づけ、(ニ)、(ホ)、(チ)、の如き情緒的特質の豊かなものを「情緒的像」、(ハ)、(ト)、(リ)の如く實際的、行動的特質のものを「行動的像」、(又)、(ル)(オ)の如き積極的な適應性をもつものを「社會的像」などの如く分類假稱しこれら四つの類型群の得點を地域別、階級別、母親の、年令別等に集計し比較してみたところ以下の様な結果が得られた。

(A) 地域別得點

地域	員數	素質的像 (%)	情緒的像 (%)	行動的像 (%)	社會的像 (%)
東京	一九七	一六・四	三三・〇	二九・四	二一・二
地方都市	二五三	一九・三	三〇・五	二九・二	二一・〇
農漁村	二一四	二二・五	二八・三	三〇・九	一八・三
總員	六六三	一九・八	二九・七	三〇・〇	二〇・五

右の表によると總員の得點は情緒的、行動的像がほゞ等しく高位を占め、素質的、社會的像が低くなつてゐる。併し兩者の差が大きくない事から母親たちの理想像の類型は必ずしも一定の傾向を持つものではない事が知られる、言いかえれば單純な原型ではなくどの面にも優れた混合的なタイプの理想像が求められていることが推定されるのである。

又、この表には地域によつて素質的、情緒的像群の得點にある程度の傾向がみられる、つまり素質的像の得點は東京一六・四%、地方都市一九・四、農漁村二二・五%であつて、

『頭がよい』とか『體が丈夫で器用』とか、『容姿がすぐれている』とか言つた理想像は田舎の母親の方に稍多くの支持者が見られ、之に反して情緒的像の得點は東京三三・〇%、地方都市三〇・五%、農漁村二八・三%で『美しいものを好み、鋭く感じとる子』とか『心がひろく人を容れる子』とか『誰れにでも親切な子』とかいつた像は都市の母親の方にやゝ多くの支持者をもつている事が知られる。

(B) 階級別得點

項目	職業階級				
	員數 (人)	素質的像 (%)	情緒的像 (%)	行動的像 (%)	社會的像 (%)
専門的	一一七	一六・七	三三・一	二八・四	二二・八
半専門的	二七七	一六・七	二八・九	二九・〇	二五・四
熟練	一九七	二四・〇	二八・三	三〇・〇	一七・四
その他	七三	一六・一	三三・六	二八・三	二二・一
總員	六六三	一九・八	二九・七	三〇・〇	二〇・五

職業による階級間の各像群得點を比較すると素質的理想像の支持率は熟練職業階級に高く、専門的及半専門的職業階級では他のいずれの像より最も低い。情緒的像は専門職で高く社會的像は熟練職業階級では最低に評價されている。この場合も行動的像の得點はほゞ等しい率を示している。しかし行動的像の他の像に對する得點率は一番高くなつてゐる。これら

を見ると現實的な効用性が如何に母親たちにとつて切實な問題であり、殊に中・下層階級の母親達の大部分は Spranger の言う『經濟人』であることが推定されるのである、又上層階級の母親たちには『審美人』が比較的多く『社會人』はむしろ中層に多いことも考えられる。

さて、兒童の觀た兒童の理想像には年令によつて發達のな差異が認められることは既に述べた通りであるが、母親たちでは年令によつて育児の理想はどの様な變化をするものであろうか。この疑問に答えるために前に四つ理想像群の得點を母親の年令によつて集計してみたところ次表の如き結果が得られた。

(C) 年令別得點

項目	年令 (歲)				
	員數 (人)	素質的像 (%)	情緒的像 (%)	行動的像 (%)	社會的像 (%)
二九	六九	一八・九	三四・〇	二七・五	一九・四
三四	一一三	一八・五	三三・二	二八・七	二〇・六
三九	一三八	一七・六	二六・一	三三・一	二二・一
四四	一六五	二一・一	二九・二	三〇・二	一九・五
四九	七八	二二・五	二六・六	三一・六	一九・三
五〇	七〇	二二・八	二八・四	三一・〇	一六・八
總員	六四三	二〇・二	二九・三	三〇・五	二〇・一

表によれば素質的像を理想とする率は三五—三九才で最も低く、若年では少々高め、高年になるにつれて上昇してゆき、情緒的な像を支持する率は、年令の進むにつれて下降し

四〇才頃から一定するが、こゝでも三五——三九才で最低である、又行動的理想像は年令の進むにつれて上昇の傾向にあるが最高は三五——三九才の年令層である。社會的理想像を選擇する母親は三五——三九才を頂點にして高年、若年共に漸減し、素質的像の得點と表裏の關係をなしている、これらの結果から次の事が考察される。

(二) 結果の検討

若年の母親従つて子供の年令の幼い母親たちは情緒的なタイプに理想をおく者が多いが年令が進み、従つて子供が成長するにつれて現實的、効用的なタイプを理想とする様になる。

三五——三九才の年令層の母親の評価態度には一つの特徴が見られる。これはこれらの母親たちが自己の意見とか見識とかを可成明確に把握していることの一つの現れ、と見られないものであろうか。

五〇才以上の母親たちは素質的な物を期待したがより積極的な社會生活への参加には關心のうすい事が知られる。三五——三九才という年令は所謂『世帯盛り』と稱される年代で、この母親たちが最も社會的であり、行動的な像を高く評價するのはその生活空間が擴大する時期であるためであり、従つてこの年代の母親たちの育兒態度は最も積極的な傾向を示すものであると思われる。

(ほ) 母親と兒童との比較

(D) 兒童による年令別得點(概算)

學年	項目	得點(%)				
		素質的像	情緒的像	行動的像	社會的像	總員
小一	三	三〇・六	三一・〇	一九・三	二二・七	二七・〇
四中	六	二七・三	二二・四	一九・〇	二二・〇	三五・六
一中	三	二九・七	一五・七	一八・〇	二六・八	三九・五
總員	三	八七・六	二三・〇	一八・八	二四・二	三四・〇

右の表は既述した兒童自身の理想像をその學年によつて三期に分け概算集計したものであるが、これによると、先づ總員の得點比率は、

(理想像類型群) (兒童の評點%) (母親の評點%)

素質的像 二二・〇 一八・八 一九・八

情緒的像 一八・八 二二・四 二九・七

行動的像 二四・二 一五・七 三〇・〇

社會的像 三四・〇 二二・〇 二〇・五

で母親の評點と比較すると右表に見られる通り社會的像に對する評點がはるかに高く、情緒的像えの評點の低いことに氣がつくのである。又兒童の年令の上から検討してみると素質的像の得點は年令と逆行して低下し、社會的像は年令と共にその得點を増加しているが行動的像と情緒的像には年令に

よる大差がみられない。この社会的な理想像に對する評價が年令と共に高くなるとする結果は、一九三〇年の D. S. Hill の發表や一九四六年の Stouffton, Ray の兒童の理想の人物をしらべた研究に於ても指摘されている通り、このことが「兒童の生活空間の擴大」を意味するとすれば、高年の母親たちの非社会的態度の傾向も容易に首肯できると思われるのである。

(八) 事例

以上述べたのは回答の統計的處理の結果についてであつたが、回答の中から、二、三の事例をひろつてみたいと思ふ。

例(一)——東京山手地區、三四才、二女兒有り、高等教育をうけた信念的な生活態度の母、家庭の職業は研究所員で彼女の理想像の評價は次の通りであつた。

- 一、(ニ)——美しいものを好み……
 - 二、(ロ)——體が丈夫で手先が器用で……
 - 三、(リ)——人柄が朗らかではきくして……
 - 四、(オ)——學級のことや皆のことに……
 - 五、(ト)——知識が豊富でそれを應用する……
- この母の長女は描畫がすきで、いつも身綺麗にして口數が少くにくくして誰からも愛され母の理想をそのまゝに具現したような子供であつた。

例(二)——東京山手地區、三八才、一男兒有り高女卒、夫は新聞社員である。結婚後數年目に初めて恵まれた一粒種

を兩親は異常なまでの細心さで熱心に養育している。この母の選擇は、

- 一、(ト)——知識が豊富でそれを……
- 二、(ル)——自分の行いがしつかりして……
- 三、(ホ)——心がひろくて人の言うこと……
- 四、(ヌ)——他人と親しみ我儘なことを……
- 五、(チ)——誰にでも親切で……

となつて社会的理想像、情緒的な安定性に多くの關心をよせている事が知られ、一人子に見られ勝なこうした點の足りなさを充分感じてゐる事が推量されるのである。

例(三)——西宮市在住、四七才、會社員家庭の母、男五名、女三名の育兒經驗をもち(高女卒)の場合、

- 一、(ホ)——心がひろく人のいうことを……
 - 二、(チ)——誰にでも親切で……
 - 三、(ハ)——仕事に熱心でよく働き……
 - 四、(ニ)——美しいものを好み音楽や……
 - 五、(リ)——人柄が朗らかではきくして……
- でありこの母親が「審美人」であることが知られる、この年令でこれだけの子供を持つ人としてはめづらしいタイプである。彼女の家庭はさぞかし和やかな明るい空氣に満ちてゐることであろう。

例(四)——漁村の母、四二才、小學校卒で男女七兒をもつ場合は、

- 一、(チ)——誰にでも親切で……

二、(イ)——頭がよくて勉強がよく出来……

三、(ヘ)——仕事に熱心でよく働き……

四、(ト)——知識が豊富でそれを應用する……

五、(ハ)——常に身綺麗にして……

であつた。農村及漁村の母には(ヘ)、(ト)、(ハ)、(リ)、等の如き像を高く評價した者が多かつた。多忙な生活に追われて子供たちの身の廻りの世話にも充分の手が届かない農家、漁師の母たちが(ハ)をえらぶ事實に、彼女らの哀しい願いを聞く心地がする。

例(五)、最後に都市に住む人夫の妻、十八才を頭に六人の子をもつ小學校卒の母は、

一、(ロ)——體が丈夫で手先が器用で……

二、(ヘ)——仕事に熱心でよく働き……

三、(チ)——誰にでも親切で思いやりが……

四、(リ)——人柄が朗らかで……

五、(イ)——頭がよくて勉強がよく出来……

である。労働者階級では(ロ)、(ヘ)などが重要な特質とされていることは切實な生活的欲求として充分理解出来るのである。

以上の各事例にも見られる通り母の描く吾が子の理想像には彼女自身の發養、夫の職業、家の經濟狀態、子供の數などの生活環境と深いつながりがあり、又その選擇の態度にもいくつかのタイプのある事が知られるのである。

五、結 び

既述した調査結果をまとめると次の諸點が考えられる。

一、母親の觀る吾が子の理想像は、多様な特質を併せ持つ混合型で特定のタイプを持つていない——言いかえれば母親達の理想像はまだ動搖していて確立していないが、その傾向は個人的、行動的な像え多く向い、積極的な社會性を重視してゐない。

二、又その理想像は母親の年令(従つて子供の年令)、教育程度、家庭の職業、子供の數、子供の素質、性格などによつて異なる。即ち、若年又は子供の幼い母親、及び知的、専門的職業家庭の母は、情緒的な特質像を理想とするものが多いが老年及び熟練労働階級、教育程度の低い母親たちは現實生活に効用の高い實際的、行動的な能力のすぐれた子供を理想とし、又素質的な特質(知的、身體的)に多くの期待をよせる傾向がみられる。これらの事から現代性的人格類型として多いのは Spranger の所謂「經濟人」、「審美人」で、「社會人」はごく少いことが推理される。

三、母親の理想像選擇の態度には三つの類型が見られる。

(1)は母親自身の理想を表現するものであり、(2)は子供自身の現實から求められるものであり、(3)は生活の必要から希まれるものである。

(四七頁上段へつゞく)



カリキュラム論

静岡大學教育學部教授

鈴木信政

まえがき

カリキュラム研究は小學校以上の學校に於ては既に華々しく展開されて、今日では一應落着いたと見られるが、幼稚園保育所の所謂保育カリキュラムに就いては極く最近の研究に屬しその研究熱も各地各様であり、しかも全體的に見て低調なものである。その方向も雜多で、甚だしいのは學科カリキュラムの型式に迎合せんとするもの、或はカリキュラム研究はむづかしい、毎日の保育で手一つばいと投げてしまつてゐるものもある。思うに保育は過去長い間所謂經驗カリキュラム型式の下に營々として保育を續けて今日をかも得たのであるから、この傳統を守り、尊い過去の經驗を生かし、保育の實際の流に系統付け組織付けを行い、理論的批判を加えて保育計畫を立て、いけば日本の幼児教育により一層の進展が望めるのではなからうか。カリキュラムは各園にあり、その構成・活用は保育者自身の手に在りと思ふ。筆者はその卑近

な一例として、静岡大學附屬幼稚園の後藤鈴枝・藤野敏子・杉山桓子二教官をわすらわし、十一月保育計畫表を中心としてカリキュラム座談會を試みた。

保育カリキュラム構成の一例

筆者 カリキュラムという言葉は大分耳馴れてきたが、學者とか研究家という立場からでなく、保育實際家としてカリキュラムをどうすればよいか、附屬幼稚園のもつ計畫を中心としてお話しして頂きたい。

本年度の調査資料——智能検査、身體検査・發育狀況調査
家庭調査・社會生活調査等の統計表やグラフ——及び年間
保育計畫表・單元表など提示された。

この年間計畫表や基礎資料についてどうぞ。

A 年間計畫は單元表とそして月別計畫表とで展開させ計畫を立ててみました。表の形式は參考書や各縣發表のもの
を參考程度にして私達で一應きめました。

B 子供の調査は毎年やつています。實際無くては困りますから、入園時や入園後にもやつて、表にあらわし日常生活用しています。

C 施設備・遊具・用品等についても色々の角度から再検討してみました。

A 毎年やつていること・現在あるものを基礎にして私達が今迄保育して来たものを系統組織的に一つの表にあらわしてみただけです。ほんとうに荒削りで生地そのまゝですよ。

筆者 それは有りがたい。この粗材をどういうようにして立派に仕上げて行くかを明らかにして頂く所が私のねらいだ。理論的な構成よりは保育實際面から構成して見る事が、今日、保育者としてぜひ必要だと思う。

B 選擇兒という特殊條件で凡ての検査は全國平均から見て優秀の部に屬します。(入園希望者は豫定人員の約四倍になる)

C それに一クラスの子供が二十名そこそこですもの、樂に手が届きますし、一般的にみて少し程度の高いものが望まれます。

筆者 月の計畫表を一枚一枚拜見するといふのですが、今日は割愛して頂いて、十一月の計畫表だけについて先生方の御考えは。

A 小さい子供ですから月に二單元ほしい。そして含みを持たせるため保育實日數を當てゝみました。

C 十一月は行樂のシーズンですので、子供の一番好む遊園地を選んでみました。

筆者 仲々盛り澤山で、實際にはどうでしょうね。

C 今までのものを集大成した形です。先生としての豫備計畫としてはこの程度のものには必要ではないでしょうか。

A 之で實際やつてみて子供の毎日の動きにつれて取捨選擇しています。

C 大部分お隣りの附屬小學校を希望しますので、一年生との連絡上要求が多くなつてこんなふうになります。

A この一年間私達の方針でやつてみて、來年度にはすつきりした計畫表を作つてみたい。

筆者 次にこの表の活用についてどうぞ。

B 印刷するとか小冊子にするようなことは斷然やめましょう。

筆者 そのお考えは大賛成。流行の形を追うのは愚の骨頂商店のちらしみたいに配つても肝心の子供は良くなりませんからぬ。

A 毎月の分を大型の紙(模造紙の類)に書いて各保育室に掲出して置いて、子供のお母さん方をはじめ來園の方々に見て頂きます。

C 保育中でも私達は見られるし、來園の方々には子供の動きをはつきり知つて頂けますもの。

筆者 それは良い方法だ。出來れば少し餘白を設けて、事に評價し訂正書きとみが出来るようにね。形式的に保育

日誌をいやいや書くよりは、ずつと生き／＼した子供のためになるものだ。

A 家庭へはこれを簡略にした形で通知し、子供の園生活を知って頂くようにしています。

筆者 家庭教育と園の方針とが一體となつて大變効果的ですぬ。

C 今年は發達系列(シーケンス)面を特に研究して加除訂正していかうと思ひます。

B この表は今に赤インクで眞赤に彩つてしまひますよ。筆者 先生方が十分話し合ひの上お決めになつたんですから、お互に尊重し、自信を以つてやつて下さい。年度末の

總反省の時を楽しみに。

A B C とにかく計畫通りにやつてみます

(責任筆者)

あとがき

別表の計畫表は年間の一部を示したに過ぎず、全體の流れを十分察知して頂けないかも知れない。或は展示用のものからみると、色々批判すべきことが多いであらうけれど、保育實際家から出た生々しいものとして、また今後の精進により一步一步日常保育を進行しながら經驗カリキュラムを構成していく途上のものとして考察して頂きたい。カリキュラム研究は各國の身近にあるもの、各園獨得の妙味を發揮させるものとして工夫考察して頂き度い。カリキュラムがほんとうに

地につき、所謂線香花火的に終つてしまわないことを聲を大にして叫ぶものである。



ア
メ
リ
カ
童
話
か
ら
5

松原至大

うさぎのスクーターとハローウィーン

十月のある夕方のことでした。うさぎのお母さん（ゴットンテール「綿のようなしつぽ」という意味を持つています）が、小さなお家の中から出てきました。外は冷めたたくて、あたりのものが、凍つていました。子供のスクーターとスーが、中庭で遊んでいました。お日さまは、顔を見られるのがこわそうに、頭から雲の被まいをかぶつていました。お母さんうさぎは、すいぶん妙なことだと思ひました。その中に、お母さんうさぎは思ひ出しました。今夜は、ハローウィーン（天にのぼつた大勢のキリスト教の聖人たちをおまつりするハローアス（萬聖祭の前夜、十月三十一日））の夜は、ウイッチ（魔法を心得たおばさん）をはじめいろいろなスピリット（精）が、出歩くと言い傳えられます。でありました。そこでお母さんは、かわいい子供たちを呼んで、言いまかせました。

「今夜は、ウイッチが出たり、

黒い大きなふくろうが、

飛んだりする夜ですよ。

お月さまは、いやな光で、

どの木もうなりますよ、

びつくりしたかのように。

あなた方、お利口ならば、

頭をかくしましょう。

おばけも、ベッドは見つけません。」

お母さんのおつしやることを聞いている中に、スクーターと妹のスーの眼は、大きく、まんまるくなつて、こわくわと肩越しに、後の方をふりかえりました。けど、なにかわつたことはありません。お日さまは、大方見えなくなつていました。ただ見えたのは、その大きな赤い頭の先のところだけでした。そこで二匹は、お母さんについてお家の中に入つて、スクーターとキャツプとをぬぎました。夕食が、テーブルの上で待つていました。早速それにむかつて、おなかいっぱいに頂きました。しばらくしてから、お母さんに「おやすみなさい」のキスをして、あつたかい小さなパジャマを着て、ベッドの中にはいこみました。

間もなく、お月さまが空にのぼつて、につこりとなりました。明るく笑つて下さつたので、スクーターは眼をこすつて、起き上りました。スーの耳のところに行つて、そつと言いました。

「窓のところへ、そつと行つて、

外をのぞいてみようよ。

ウイツチがいたら、

急いでもどつてかくれよう。」

そこで二匹は、そつとベッドから出て、窓のところへしので行きました。小さな頭をのばして、あたりを見まわしました。だが、ひつそりとしていて、なにも見えませんでした。

「なんでもかんでも同じだよ。

いつもとかわらないよ。

窓の外へはい出して、

なにが見えるか見ようよ。」

スクーターはこう言いながら、窓敷の上にとび上ると、かるがると地上にとびおりました。スーは、ちよつとの間、

どうしようかと思つたのですが、スクーターの後に續きました。二匹は、そつと中庭を通つて、草地の中の小路に出ました。あつちを見たり、こつちを見たりしました——最初の中はこわごわながら——けれど、かわつたこともないので、スクーターは大胆になりました。その白いしつぽは、月光の中で上下にふりまわされて、足は空をけつていました。

やがてお月さまは、しずかに雲の後にかくれました。暗くなつてくると、スーは、こわごわ後をふりかえつて、心配そうに言いました。

「お兄さん、後を御らん。」

ウイツチのねこがいるのよ。

きいろい眼がぎらぎらしてて、

こゝろより黒いよ。」

スクーターはこれを聞いて、一眼後を見ると、地面に足のさわらないほどの早さで、かけ出しました。後にあつたきいろの二つの眼は、びつくりしました。それは、ウイツチのねこではなくて、お百姓のブラウンさんのねこでした。ねこは、小路にすわつて、頭をかくと、こゝろを言いました。

「にやーお。どうしたのだろう？」

なぜ逃げたのかしら？」

きつと、私をこわがつたんじやないよ、

だつて、毎日お顔を合せているもの。」

だが、スーとスクーターはびつくりして、走り續けました。おしまいに息が切れて、走れなくなると、立ちどまらて、あたりを見まわしました。

兩側に木が幾本もありました。二匹は、森の中いたのでした。前にも、この森には来たことがありました。けれども今は、その時と場合がちがつていました。お月さまが、後の雲から出て來ました。でもその光は、銀のようではなくて、木々の間から青くおぼけのように見えました。枝は長く、黒い影を地面に落していました。

スクーターは妹の手をおさえて、ふるえ聲で言いました。

「ぼくたち、お家へもどろうよ。

ぼく、ねむたくなつちやつた。

ぼく、なにもこわくはないよ。

でも、——なんだかぞつとするよ。」

スクーターは、こわくないことをスーに示そうとして、口笛を吹きました。けれどもその口笛は、弱くて、ふるえていました。

突然、低いなり声が、木の間からおこりました。スーは、泣き出しました。

「ああ、こわいわ。

お兄さん、あれ、なあに？

うなつているようよ。

ウイツチじゃないかしら？

あの石の後にかくれましょうよ。」

そこで二匹は、一本の木の下にある大きな石のところへかけて行つて、かがみました。また變なうなり声がしました。スクーターがあたりを見まわすと、そばの地面に、長い骨ばつた指のついた、大きな黒い手の影がうつっていました。スクーターはスーをつかんで、言いました。

「早く、スーちゃん、逃げなれや。

ウイツチが後にいるよ。

うさぎの穴の中にかくれよう。

最初に見つかつた穴に。」

この二匹が聞いたひびきは、木々にあたる風の音でした。全く、うなり聲などではありません。ウイツチの手だと思つたのは、ほんとうはお月さまに照らされた木の枝の影でした。二匹は、このことを知らなかつたので、どんどん走つて、森のはずれにあつたうさぎの穴まできました。スクーターはその中にもぐりこんで、スーをひっぱりました。そこで音も立てずに、しばらく二匹はちぎんでいました。その中に、スクーターは外をのぞこうと思つて、穴から頭

をちよつと出しました。けど、まだ一つの耳が外から見えもしない中に、スクーターは驚きの聲を上げました。なにかがその耳をつかんで、しつかりとおさえたのでした。それに續いて聲がしました。

「御免よ、ねえ。」

わたしは、虫だと思つた。

わたしは、虫が大好きだからねえ。

虫の動くのを待つていたのだよ。」

スクーターとスーがのぞくと、そこには利口なふくろうのおじさんが、大きな眼をしずかにばちばちさせていました。二匹はおじさんに會つて、うれしく思いました。おじさんは自分たちを、無事にお家へ送つてくれることを知つていたからです。おじさんに教わつた路を歩きながら、スクーターはスーに言いました。

「ぼくたち、ねことウイツチを、

見たこと忘れちゃおうよ。

なぜハローウインに、

こんなものに出會うというのか、

ぼくにはわからない。

利口なふくろうのおじさんまでが、

ぼくの耳をひつばつたよ。

ぼくのハローウインは、

一年間はおしまいだ。」

(ルース・ラインド・キルペーン女史の作から)

幼稚小學校研究集會參加報告 (3)

3 幼稚園班の研究について

千代田區立
番町幼稚園

徳久孝

先頃千葉縣市川市に於て開催せられました關東地區研究集會に、初め幼稚園が加えられました事は、私共と致しまして本當に大きな喜びでした。

先づ市川驛につくと、そこに高々と掲げられた立看板に「小學校幼稚園」と肩を並べて書かれてありましたのでそこから肩身の廣くなつた思いを致しました。

六日間の期間中は實に時間正確で、八時半から講義、實際授業參觀、批評レクリエーション、午後は班に分れて班別研究といふ様にプログラム通りに

行なわれました。全體としての感想等は他の方々の御報告により既に御存知ですから、班別研究の様子及感想を二三申上げたいと存じます。全體が十三の班に分れましたが幼稚園は其の中の八班になり、全部で卅五名、指導部の方及小學校の先生方を除いた幼稚園の者は廿八名でした。群馬縣教育課から御出席の木村先生をチャマンとして討議が行はれましたが、休けい時間をとらないでよいから十分討議したいと言う班員の熱心な申出で、毎日一時から五時までみつしり研究を致しました。

「此の班は女ばかりの様ですね」とチャマンの先生がおつしやつた程、女性の發言が活潑でした事も珍しい事であつたと思ひます。

先づ第一日は、前以つて示された研究問題が六つありますが其のどれをとつて研究を進めていくか、又どの様な方法で行くか討議して、(1)「幼稚園と家庭との協力方法(2)「幼稚園教育はなぜ必要であるか」の二つをとり、第一日、二日は問題(1)について、三日と四日は(2)について研究するといふ様に大體の豫定を立てました。

(1) 幼稚園と家庭との協力方法
1 幼稚園と家庭とが相互に協力する必要があるわけ

(2) 幼稚園と家庭と協力する方法
2 幼稚園教育はなぜ必要であるか

1 幼稚園の目的は何か

2 幼稚園と小學校と相互に協力する必要があるわけ

3 幼稚園の地位

4 どうしたら一般社會の人に幼稚園の必要性を認識させる事が出来るか

以上の様に細かく項目をわけて、先づ1の「幼稚園と家庭が相互に協力する必要があるわけ」について考える事に致しました。之れはとりもなおさず「幼稚園の目標を達成する爲に必要である」といふことになると思ひますが、それは幼稚園の目的其の他の所で一踏に考える事とし、幼児の特質について考へて見ました。幼児の特質を身體的方面と精神方面に分けて見ますと

◎身體的特徴として

- (1) 發育成長の速度が速い
- (2) 運動機能が發達の途中にある
- (3) 罹病しやすい
- (4) 健康生活に對する良習慣の定着期である

(5) 頭が大きく、不安定な状態にある

等の事があげられました。

◎精神的特徴として

(1) 外界の刺激について反應が強い

(2) 自己中心的である

(3) 想像力が強く模倣性にとんでくる

(4) 興味中心である

(5) 未分化であり、現在は分るが過去の事は分らない

(6) 徹底的にきわめたい求知心がある

(7) 競争心がある

(8) 小さいものに對して愛情を持つ

(9) 情緒が次第に分化しつゝある

(10) 指導性を持つて来る

(11) 個人差がある

(12) 非常に發達の速度が強い

(13) 單純である

等があげられ又、

◎社會性的特徴として

(1) 反こう期である

(2) 簡單なルールを守つて團體的

遊戯が出来る

(3) 自己を認識して他の者を見る事が出来る

(4) 指導者の位置に立つ者が出来る

等の意見が出ました。此の間競争心については、幼児期は「競争心が強い」、「強くない」の二論が出て、兩方とも種々の實例を示して話され、同じ幼児期でも年令の低い者は競争心も少く、學令に近くなるにつれてはつきりして來るといふ事も言はれました。結論として「競争心はあるがその強い弱いは環境と個人差による」といふ事になりました。又幼児の社會性については社會性の擴大とリーダーについて問題になり四歳頃になるとグループがほしくなり、五歳頃には四人五人とグループが擴大されて行く、然しこれも環境によつて擴大のされ方に違いがあり、リーダーは「幼児の自我意識の芽ばえ、自分を認められたいといふ氣持と、幼児の力のあるものに頼るといふ雷同性がある事によつて、リーダーが

自然に生じて来るのである」といふ事
になりました。

此の様にして討議されました第一日
の問題は各自が翌日までによく整理し
て来る事を約束して一日は終りまし
た。

第二日は一日の結論を整理し再検討
を行った結果次の様になりました。

幼児の特質

(1) 身體的特徴

- 1 發育の速度が早い
- 調和のとれた發育を促進さ
せる必要がある。
- 抵抗力が弱い、疾病にかゝ
りやすい。

○個人差が大きい

- 2 運動機能が發達してくる
- 3 健康に對するよい習慣の定
着期である。

(2) 精神的特徴(社會的をふくむ)

- 1 自己中心的傾向が強い、自
我が目ざめて来る
- 2 想像と現實との區別がつき

にくい

3 情緒は分化しつゝある

4 求知心が強い

5 集團意識が出て来る

6 個人差が大きい

以上にきまりました。次に「家庭と
協力する必要があるわけ」は、幼児の
特質からの外更に左の二つがあるとい
ふ事になりました。

1 幼稚園と家庭とが相互に協力する 必要のあるわけ

(1) 幼児の特質から

(2) 家庭生活と幼稚園生活の相違
から

(3) 幼稚園教育の理解を社會人に
深める

即ち各家庭と幼稚園とのつながりと

いふ様な狭いものにとどまらず、其の
家庭を中心にして廣く一般の人に幼稚
園教育の必要をわからせる様に努力し
なければならぬ。其の點から言つて
も十分に家庭と連絡し保育効果をあげ
なければならぬのであります。

次に方法の問題に移り各園で實際行

つてゐる事を中心にして、研究を進め
ました。

2 幼稚園と家庭と協力する方法

1 連絡機關の活用(P.T.A. 母の
會等と協力をする。例えば給食の
時に手傳うとか運動會にも進んで
母達が参加する等)

2 保育參觀：随時の保育を見てい
たゞいて實際の子供の姿を知らせ
て、懇談をする。

3 家庭訪問の實施：幼稚園側から
家庭を訪問して環境、家族の人の
様子を見て、懇談する

4 集會の開催：講演會、講習會、
幻燈會等をして母親再教育と正し
い文化を興える。其の他運動會、
音楽會等

5 地區別指導：多忙の爲中々出ら
れない親達の爲に、地區別のグル
ープを作り夜等其親に先生が出掛
けていつて、共同の問題で話し合
ふ、勿論個別懇談も出来る。

6 連絡調査の報告

印刷物により幼稚園から家庭へ、

又家庭から幼稚園へ連絡する。

面接：個別に面接し懇談し指導する。

8 機関紙の発行：PTA新聞又は週報等により幼稚園の色々の事を連絡する。

9 社会施設の利用：電話、ラヂオ警察の利用、又健康面については保健所との連絡。

等があげられました。尚ほ具體的な問題として、家庭訪問について、連絡調査について實例をあげて話し合いました、其の結果。

○家庭訪問について

1 入園したら直ちに全園児の家庭をなるべく早期に一巡り訪問する

2 家庭訪問の理由を明にし誤解を招かない。

3 家庭の具體的な事實を知り家庭の寮圍氣をよみとる。

4 先づ幼児の長所を發見して話し次に短所を話す様にする。

○連絡調査について

1 毎月生活表を作成して躰の効果

をあげる。

2 發育グラフを作成して健康に注意する。

3 連絡事項は必ず印刷物とし、印刷物には番號をつけて見落しをふせぐ。

4 廻覽板の制度による。

等の事があげられました。又家庭としては幼稚園のどんな點が一番知りたいか、幼稚園としては家庭の何が一番知りたいか、の二つについて考えて見ました。

(1) 家庭の立場から幼稚園の何が知りたいか。

丁度お子さんを幼稚園に現在通はせていらつしやる方々から左の様な事があげられました。

○子供が集園の中でどんな生活をしているか、友達とどんな關係にあるかをしりたい。

○其の園の保育計劃の大要をしりたい。方針、其の月の豫定、行事豫定等。

(2) 幼稚園の立場から家庭の何か

知りたいか。

○幼稚園に對する家庭の希望

○家庭に於ける園児の位置

○幼稚園でしている事がどの様に家庭に通じているか。

○幼稚園に入つてからの子供の變化。

以上があげられました。

第三日は實際保育參觀で市川の日出學園幼稚園部を見學させていたゞきました。參觀記は山村先生が發表されましたので略しますが、本當の姿の新保育を見せていたゞいた事と、先生の人格の子供への影響をはつきりと感じさせられました。何時間の討議よりも『百聞は一見に如かず』尊い物を得られたと思ひました。

第四日目の研究は(2)「幼稚園の教育はなぜ必要か」であり、其の1の「幼稚園の目的」について考へて見ました。日々保育を行つてゐる者が今更ら目的を云々するまでもない事ながらさて改つて、父兄や他の人々から「幼

幼稚園の目的は」と問はれた時簡単な言葉で言い表はされるには……といふ事になりなすと一同色々と考えてしまいました。

○人間完成の基礎を培ふ所である。

○子供の生活環境を整理して心身の調和的發達をはかり躰をすることである。

○幼児の内面的生活の充實をはかる。

○集團生活にそくした生活指導を行ふ所である。

○幼児の社會生活を満足させる所、等々種々あげられましたが、結論として左のようになりました。

①幼稚園教育の目的は何か

(1) 幼児の社會生活の意慾をみたす。

(2) 集團生活の中で日常のよい習慣をつける。

(3) よい環境の中で心身の調和的發達をはかる。

次は低學年との連絡問題として「幼稚園と小學校との相互に協力する必要のあるわけ」について研究致しました

此問題を研究しながら痛感しました事は、幼稚園の普及發達がまだ本當に不十分であるといふことでした。出席された地區の方々の小學校で、幼稚園を修了した者が一級に一、二名といふ現状でした、これでは本當の幼稚園の必要性は認めていたゞけず連けいも十分に出来ないのは勿論であります。

何よりも幼稚園の増設をはからなければならぬと思ひました。

○急激な變化をさける爲に協力が必要である。

○教育の一つの體系の中にあるのであるから相互の理解が必要。

○もつと幼稚園からいつたものの個性を尊重して伸して貰いたい。

○幼稚園の生活を理解して貰いたい。

○出来たら級を別にしてやつて貰いたい、等意見が幼稚園側から出ました、小學校の先生方から幼稚園から行つた子供についての御感想を伺つて見ました。

○集團生活に慣れてゐる。慣れすぎる點がある。

○物事の着眼點がよい。

○創作力が養はれている。

○繪畫による發表、其の他發表力にとむ

○大人に對して慣れ過ぎた態度がある

○家庭から來た者との差があるのでやりにくい等でした。

②幼稚園と小學校と相互に協力する心要のあるわけ

○子供達が幸福に正しく成長する爲に

●幼稚園の生活を知る

●小學校の生活を知る

●幼児の個性家庭狀況をよく知る、といふことになりました。

第五日目は「幼稚園の地位」について研究を致しました。之れも目的と同様分つた様な事でありながら、「幼稚園とは如何なる地位にあるか」と改めて考へて見ると又私共は頭を悩ましたのでしたが、此れを左の二つの面から考へていく事になりました。

(イ) 學校體系の中の幼稚園の地位

(幼稚園のはたす役割)

(ロ) 一般社會に於ける幼稚園の地位

先づ(イ)の面から考へますと、

○小學校の前の教育をする所

○創作的表現に對する興味の芽ばえを喚起する所

○集團の中で幼児の身心の健康生活の基礎づけをする所

○幼稚園は家庭と小學校の間にたつてよい環境の中で躰に重點をおいて就

學前の基礎教育をする所

○集團の中で幼児の特質に應じて人格完成を目ざして基礎教育をする所

等種々の意見が出ましたが、結局言わんとする所は同じなので、左の様にまとめました。

○「集團の中で幼児の特質に應じて身心の健康生活の基礎づけをする所」

(F)、「一般社會に於ける幼稚園の地位」は次の「どうしたら一般社會人に幼稚園の必要性を認識させる事が出来るか」とまとめて考へる事として直に此の問題に移りました。これでは結論として左の四項目があげられました。

(1) 幼稚園自體が一般社會人に幼稚

園の必要性を認識させる方法

○組織の力による(P.T.A.協會、幼稚園協會、教育行政機關、教育關係者機關)

○幼稚園自體の活動(集會、機關紙の發行、地域別指導、幼稚園の解放、展示會)

○社會施設の利用(ラジオ、映畫、新聞)

○幼兒教育者の資質の向上

(2) 教員養成機關の内容充實

(3) 教育行政機關(研修計畫、待遇改善、宣傳)

(4) 幼稚園の増設と施設及教育内容の充實

如何に一般人に幼稚園の必要をみとめて貰おうと努力しても、現在ある幼稚園が充實した教育内容により、本當の教育を行ふのでなければ數だけ増しても、却つて逆効果になつてしまひます。それにはしつかりとした養成機關でよい先生を作り、行政機關に於ては絶えず此の先生方の待遇とか、研修に考慮して行かなければならないと思ひ

ました。

最後に、我々が日夜努力に努力を重ねているにもかゝらず一向に幼稚園の増設もされず發達しない其の原因は何であらうか、障害となつている點について考へて見ました。

○幼稚園の必要性を認識させる上に障害となつているもの

○財源の不足

○議員の認識不足(衆議員——縣都、區、町會議員等)

○教育行政機關一般社會人の認識不足

○幼稚園教育者の能力不足

○保育所が兒童福祉法を逸脱している點

等があげられました、終りに文部省側から、
○幼稚園教育者が積極的に幼稚園教育をもち上げていかなければ、幼兒教育の向上はない、
○現在の幼稚園教育の實狀を具體的に文部省に話して貰いたい。

(四七頁下段)

福岡大會記

秋田美子

長旅の疲れも一年を同じ責任に結ばれた事務局の方々との同行で豫期したよりも樂だつた。博多に着く、出迎えのなつかしい方々との御挨拶もそこ／＼縣廳に入り本部(準備の)とされた室で大勢の方々の隠れた御働き振りを拜見して早速講習會場に運ばれる。

この一行を乗せてくれたバスは廣島圖書の移動圖書館のもので外装は仲々スマートな美しいものだが中に入ると一寸犯罪人の護送用のものによく似た感じで外観は効かず夏向きではない。併し今朝廣島から着いたばかりとのことだが早速多面的な活動を發揮し大いに大會に協力されているようであつた。

★

講習會場では先づむつとするようないきれで總身から粟粒の★うな汗が吹き出て来るような暑さで全く立錫の餘地もなく滿

員以上の盛況である。豫定では五六百人のつもりが倍近くの聽講者となり保官もその整理対策には必死のおももちであつた。保育者の仕事に對する意欲のたくましさと眞剣さには全く心を打たれるものがある。

明後日から開かれる大會の參加者も豫測に反して二千名を突破することと會場の餘儀ない變更から適當な處もなく處に前代未聞の天幕張り會場が學藝大學のグラウンドに設けられることになつていふという。うれしい悲鳴、辛い現實である。天候は餘り良くなく雲行きの險しい空を見上げつゝ準備について色々打ち合せをする。

翌日は講習會場へ今日こそお手傳いをして力んで出かけてみた處大野會長の行き届いた御配慮によつて豫想以外に巧みに整理され宮武講師のお話しを聞く人々の面もも昨日に比べてゆつたりしている。隣接地の天幕會場では、明日使用する、椅子、テー

ブル、マイク等種々の用度品の手配に大奮であつた。

午後の岩田屋デパートで開かれた二つの役員會にお馴じみのお顔が多く中には新進氣鋭のニューフェイスも見えて、坂元副會長の議長振りが鮮やかに、規約改正その他の議案を活潑に討議し和やかな中にも眞剣な會合であつた。デパートの正面に歡迎の大きなほりもかけられ又會場近くの街頭には祝大會の行燈の裝飾もみえて、博多市福岡市擧つての歡待振りは隨所に見られる。街には工業都市としての活氣が充ちていて、昨年の新潟とは可成り違つた雰圍氣を感じる。博多織、博多人形、その他の特産品が御下りさん(?)の購買欲をそより財布の中と相談しながら故郷のお土産品と胸算段したりする。

窓々間近に迫つた大會運営の打ち合せをすべく、九州當局の方々を本部に訪れると若い男女の方々(兒童課員と聞く)が參加者急増のため御土産品の組み替えをやつておられた。無駄口一つ聞かず歇々と額に汗して働らいていられるこの方々はこの二三日全くの半徹夜で刻々に増やされてゆく參加者の受け入れ對策に奔走されていると伺

い只々感激で胸が一杯になる。十二時近く打ち合せを終り宿にかえると雨となる。晝間みたあの會場のことか氣にかゝり事務局一同安眠出来ず夜明けを待つ。幸い朝の訪れと共に雨は止み、照らず降らずの大會日和で一同漸くホツとする。

早目に會場に来てみると各都道府縣別の受付には若い女性群がズラリと並んで用意萬端怠りなく來會者を待ちうけている。スピーカーの取りつけ、椅子運び、裝飾等その朝でなくては出来ぬ野外だけに忙しく立ち働られる施設係の活躍がとりわけ目に立つ。

代議員席に並ばれる人の數も次第に増し手に大荷物を下げて會場に道行された熱心な方もある。「まあ暫く、お元氣で」「やあおたつしやで何より……」と知己同志の挨拶が彼方此方で始まつている。そのなかしそりなうれしそりな表情をみていると此方まで思わずつり返まれてしまひそうである。

★
會する者二千の中四分の三が女性、年齢も十八歳から七〇歳位の開きがあり、和服あり、ニールツクあり、カトリックの尼

僧姿あり、てい髪の尼姿あり、色とり／＼の服装で比較的若い女性の多いせい何か華やかな香りがしていた。それと同時に保育者が年々楽しくなつて行かれる様に感じたのは私の思い違ひであるるか。愈々開會となる。座席もなく立つていられる方々も可成りある。會場が外であるために厳しゆくさと盛り上りの迫力が人數の多い割にひし／＼と感ぜられず何か淡い物足りなさを覺えた。會場の傍らに出品された様な遊具を使用して遊ぶ近所の子供達が朝から夕刻まで絶えず時ならぬ臨時遊園地の出現に私達の會合らしい特色を出していた。午後ともなれば舟漕ぐ人や、エスケープ組もポツ／＼とみえて残る人々の表情にも漸く疲れがみえ初める。だが語る人、聞く人の態度の眞面目さは他の大會の遠く及ぶべきなものもので、さすがにと心強くうれしく感ずる。

毎年大會を開催することに對する批判も昨年來往々聞かされてもいたし大會議案としても提出されたが賛否兩論大いに戦われた後の採擇で絶對年々開くべしとの案に凱歌が上つた。保育の重要性の宣傳啓蒙未だ充分ならず又同志の結合による相互の勵ま

し合ひのためにも、大會は絶對必要なりと説く代表に女性が多く隔年論の主張者に男性の多かつたのは面白い對照であつた。

大會を私も多くの方々の中に時に忘れられぬ方も少なかつたが今年の之には何と云つても福岡市長に止めを刺した。少彙、大聲、七十數歳の幼児なりと稱せられて説かれるところ語れるところは大きいにユーモアあり、洒脱あり聞く人に一陣の涼風にも似た快よさと感銘を與えられた。就中レクリエーションの夕の出演は正にアソビの拍手響く鳴り止まず人氣の大きさを物語つていた。觀光の途次長崎の原爆中心地跡と稱せられる場所を訪れて當時のお話しを良き同志荒木長崎市會議員より伺う。戦争の慘、再び吾等人類の上にする勿れと大聲で叫びたい程の衝動を覺えた。我が手に現在委ねられている幼な子が、平和に育ち良き世界、幸福な世界を築く日まで保育者の全國的な結集は、益々強く希望されるその一つのデモンストレーションとしての大會の意義も亦大きいと思ふ。終りに九州プロツク保育連合會の皆さんの日夜の御苦勞と大いなる犠牲に對して心から感激と尊敬の意を表したい。



子供讃歌（二三）

倉橋惣三

一二 家庭教育行脚

1 家庭教育振興運動

國外にいて思うと戀しい。歸つて見るとなつかしい。較べて考えるとこれではいけないと氣がつく。その氣がつく點は、あれもこれもである。しかし、世の中のことには心だけでは解決できない。少くも急には思う通りには實現し得ない。彼が高めもし廣めもし來た學校教育の理想は、設備の改善に財政を伴い、教師の養成に年月がかかる。費用もいらす仕度もいらす、どこでも誰でも、心一つで、それ／＼に振興できるのは、各家庭の教育である。しかも、その家庭教育の振興がすべての教育振興の基本であり、その家庭教育の中心は母性の向上であり、その最も大切な根本問題に、これではいけないと氣がつく。缺陷がいろ／＼ある。缺陷が氣につくのは、他國の實際を見て來たからである。その缺陷を補つたり改めたりするのは、折角よそを見にやつて貰つたものゝ自國に對する任務でなければならぬ。但し、缺陷といつて、今までも無かつたのではない。補うといつて、まる輸入ではない。それどころか、離れて思い、改めて見なおした機會に、今迄氣がつかないでいた、戀しい、なつかしい美點もあり長所もある。但それが、自國特有のもの、世界に冠たるものと誇るのには狹隘な獨善だ。自國以外の世界を歩いたものには、もうあり得ない。

わけてもそれが家庭教育といつた人間性事象である。それ／＼異つているところはあつても、共通の人間的事實として一つである。共通の中に、傳統的慣習の相違があるだけである。慣習はそう深いものではない。強くはあつても歴史的社會的の異で、人間性の根の別ではない。家庭教育はひつき、よう親と子との間のことである。世界どこだつ

て、親子の情に變りはない。といつて、他國學ぶに及ばずといふのではない。それどころか、いろ／＼の形や色の違いを知つて、初めてその根にある同じものゝ深さが味わえるのである。異によつてこそ普通が見出だされる。異に捉われて普通に到らないのは掘り下げ方が足りないからである。というよりも、異の理解し方が足りないからだという方がよからう。異を知らないでは普通を感じ得ない。多くの異を知るのは普通を會得するためだ。

日本の家庭教育の缺陷というのも、他國の家庭教育に較べて、その異を學ぼうといふだけのことではない。家庭教育というものは普通の人間性の發現の上に歴史的社會的なくもりと、かたよりがあることである。これは、學校教育の中に誤りや不足があることよりは大きい問題である。それは、その教育結果の問題である前に親と子の不幸である。親と子との別々の不幸ではない。親子の間の不幸である。教育的缺陷というよりも人間的不幸である。彼は、自分の國にある此の不幸を、以前から憂えていながらなかつた。併し、自分の家を離れ、自分の國を離れ、自分の國に歸り、改めて痛感したのであつた。外國の旅から新たに歸つて來た者のならいとして、彼も、同胞のために役立ちたいとあせつたが、その彼をして一番強く深思させたものは此の點であつた。こゝに、彼の『家庭教育行脚』が、機會を得る毎に、機會を追い求めては熱心に始つた。

丁度その頃、文部省が家庭教育振興運動を始めた。時勢であつたのだろう。彼の行脚は、それによつて機會を増し、休日休暇を殆んど皆そのために用いて、東西南北に馳け廻つた。後に、彼は文部省社會教育官を兼任した。社會教育は多くの方面に及んだが、文部省も家庭教育について意を用いたし、彼もこれを、家庭教育行脚（お役人としては巡視か？）に利用することを忘れなかつた。それが、どれだけの結果を擧げたかは分らない。又分るものでもないが、母達と語るほど楽しくも又語り甲斐のある思いのした事はなかつた。母に語るより母と語るのが彼の心願であつたし、その母一人々々の心には、必ず數人かづつの子供が共にいる譯である。親子のことを聽く母達はいつでも眞剣である。その態度はどこまでも實感である。將來のために學ぶ學生や、教育のために研究する教師を前にしているとは全く別の世界である。彼は説くのもなく論ずるのもなく、評するのでもなく、その眞剣と實感とにひきつづられて家庭教育に對する自分の眞剣と實感とを、そのたび毎に強められ切にされるのを感じた。こゝでも多く得たものは自身の方であつた。

2 あ の 村 あ の 町

a 鯛 の 大 漁

『どうも、長くお待せして相済みません』

『村長さん、何人位集つていますか』

『まだ、その……』

七時の開會というのに、もう、一時間半も過ぎてている。さつきから、同行の縣の若い役人が、しきりに氣をもんでいる。

『皆さん忙しいのでしよう』

漁村の集りの遅れることには慣れている。彼は平氣で、波の遠鳴りを聞きながら、二階のですり越しに暮れきつた空を見ている。星がぎら／＼していて美しい。下の帳場のほん／＼時計が、時代はなれした音で、ゆつくり九時をつ。頗る香氣である。

餘りおそくなつては、充分話ができない。さすがに、彼も少し氣になり始める。

『私がかまわないが、何事か起つたんじやないでしょか』

『今、見せにやりましたが、もうやがて……』

夕食の時から彼の相手をして、膝もくすまない几帳めんな村長さんが、のび上るようにして濱の方を見る。そうして、別段のことではない顔をして、

『もうやがて片づきましょう。鯛の大漁でして。女達も濱へ總出で働いておりますんで……』

『あゝ、そうなんですか。早くそういつて下されば、私も手傳いに出たんですのに、ハハハ、。大漁は結構でしたね』

『へえ、えらいむれが寄りまして……』

『家庭教育の話どころじやありませんね。子供らは、どうしています』

『みんな、一緒に濱へ出て手傳つています』

『親子近所隣らず揃つてですね』

『まゝこういうことが、ぶつかりまして』

『鯛は、家庭教育の集りのあることなんか知りませんよ、ハハ、……』

やがて迎えに來た校長さんに暗い坂道を案内されて、學校へ行つた。教室を二つつゞけた会場には、母達が一ぱい集つていた。濱からのそのまゝの姿である。鯛のにおいがするような氣がした。曳き網から磯の砂へ、びんくはねかえるフレッシュな魚の香が。

『鯛の大漁でしたつてね。あした御馳走になりたいですな……』

びつくりするほどの大きな笑い聲が皆から起つた。

『いわしこというのは、親鯛と別なんですか……』

聲を出して答えたおばあさんがある。また大笑が起つた。房州外洋の溝を前にしてと同じ大騒だ。子供たちもわめいていたが、そのうち前列の二三人が、母の隣に頭をのせて眠りだした。今夜は打ちとけた話あいができるなど、彼は椅子に腰をおろした。立つて話すと講話になつていけない。講話では今まで生き鯛の腹をさいていた母達と生きた話しあいはいできない。

翌朝、歸りのバスの中で、縣の人と話した。

『昨晚は、どうも、とんだ……』

『愉快でしたな。あれでこそ、忙しい母達のところへ出かけて行つた氣がします。あの待つている間こそ、私の仕事だつたのでした。教育より漁の方が生活ですからね』

好 き 聴 き 手

『先生さま、ありがとごせえました』

山間の會場へ彼を送つて來て、そのまゝ待つていた車屋さんが、彼を乗せて驛の方へ歸る途中である。會場を出た

時は勢よく驅けたが、さつきから、少しのろ／＼になつた。道がのほり氣味になつたせいかと思つてゐると、突然いゝ出したのである。

『わしらのようなもんでも、親でござえますさあ。子供らに濟まねえとばかり思つていましたが、親に變りはねえことを、よく分らせてお貰い申しました。お話を聞いて、わたしやあうれしくつて、涙が出ました』

『子供さん、幾たりだね』

『五人』

『おかみさんは、たつしやかね』

『それが、長くわすらつてまして』

勿論、行く手を向いたまゝで、足はいよ／＼おそくなる。

『そりやあいけないね』

『へえ、だが、子供の世話だけは、よくしてくれませんか。わたしやあ、だめですが』

『こゝろやつて稼いでいる親父が、だめつてこたあないじやないか』

『いやもう全くのたぐいでござえますし、貧乏で全くだらしがねえんで、全く、子供らに親の顔もできねえと思つてましたら、先生さまのさつきのお話じやあ、それでも親だつて……』

勿論、顔は見えない。一寸前かゞみになつて、力のはいつてゐる黒い首すじに汗がにじんでいる。

『先生さま、親は親でござえますさあねえ』

『そうだとお君』

『こゝろなれ、あゝなれとおつしやらねえで、そのまゝで親だ、と、おつしやつて下さつた時、わたしやあ、胸へぐつと……』

『あたりまえの話さねえ』

今日集つていた人達は、みんな素樸な村の人だつた。彼にとつては最も貴い聴衆だつた。彼は東京の上流夫人の集りにも招かれゝば行く。母でさえあれば、皆大切な聴衆だ。しかし、今日のような人達の方が、彼の話したいことをよく分つてくれるといつも思うのである。話し甲斐もあるといつも感じさせられるのである。

驛のある町へ来た時、もうとうに話題は變つていたが、

『子供達、かわいがつてやんなさい』

彼は車をおりながら、その人のいい顔を初めてよく見た。こういうのが、好き聴手というもののなのであろう。好き聴手は思いがけないところにある。四國のある町の會場の下足番のばあさんもその一人だつた。その町へ再度招かれた二年目の時、出迎への土地の夫人達の後方に、服装の貧しいばあさんがいた。夫人達の中の一人がそのばあさんを彼の前につれて来て、

『お覚えがありませんか。會場で働いて貰つてゐるばあさんで、先生の大變なファンでございまして、こんにちも是非お出迎えがしたいと言われますので……』

ファンといふながら、その夫人も微笑を浮べたが、彼も笑い出さずにはいられなかつた。が、後で會の人達に聞くと去年の時以來、このばあさんは、その時の彼の話を、誰れ彼れにとなく繰り返して聴かせるのだそうだ。そうして再び彼を迎えることを、誰より喜んで待つていてくれたのだそうだ。そこで夫人達の間にファンという言葉が使われるようになったのだそうだ。彼の話は、いつでも、會場で一番文字や理窟のなさそうな層をめあてにするようになつて仕舞うのだが、その年の話が、またしても、此のファンを話相手にしていることを、會場の何人が気がついたらうか。このばあさんに道樂息子があり、二人の孫があるという話は、後で聞いた。

ファンではないが、一寸面くらつたのは、或る町での會場の後部に、數人の藝者が坐つていたことである。紫人づくりで、つましく控えてはいるが、それと分らないことはない。會の幹事の惡趣味かとも思つたが、彼は構わないとしても、顔を知つてゐるであらう町の夫人達には、どんな感じを興えるだろうかと少々氣になつた。とにかく『我子の家庭教育』という講演會には、なんだか似あわしくない聴衆である。ところが、講師のそうした氣もちが通じたものか、あの藝者の中の三人は子持だからという走り書きの紙片が彼の手に渡された。そうなのかえ、彼はいつもの通り話を進めたが、その一團は他に譲らない熱心な聴き手だつた。其晚、特にその人達からといつて一籠のくだものを宿へ届けて來た一夫人は、

『大層いゝお話をしてあげて下さつて』

といつたが、彼は、格別變つた話をしたのではない。いつもの通り、母と語つただけのことであつたが、これも好

き聴き手の一種であつたのであろう。

c に が 手

好き聴き手ばかりではない。悪き聴き手という譯ではないが、彼にとつて苦手だつたのは、上流マザーと、インテリマザー連の集りである。その人達の理解と教養とは、好き聴き手といわなければならぬ譯だが、彼の話を感受するに必要な、母の苦勞や、母の謙虚や、母の本然が足りない。我が子をよく教育したいという心は疑われないが、その注文が先に立ち、その誇りが後ろにあり、みえさえも横にあつた。それも免れ難いことだろうとして、最も困るのは、觀念を喜び、理論を楽しもうとする癖である。その人達を母の形式、理想の母から生地の母に還すことには、彼はいくらでも勞を惜しまなかつたけれども、書物や文字の包装を破つてその人達の母の實感に觸れることは、彼にとつて苦手であつた。實をいえば、彼自身、そうした包装の持ち主であつて、車屋さんや、下足番のばあさんや、庶子の母などにぶつかつてこそ、その包装が破られる方なのだから、相手によつては語るに包装を以てするようなことになつて仕舞う。我れながらもどかしさと齒がゆさに終ることが少くない。そんなうわつらのことでは、行脚僧の修行にならなく。

3 滿鐵に沿うて

彼の行脚は、幾たびか、滿鐵沿線に延びた。この一本の黒い鐵路に沿うて、遠く異國に深入りしている日本の家庭には、内地の家庭とは別な悩みがある。同じ經驗を持たない彼にとつては、むづかしい問題であるが、教えながら、いつしよに考へるために、招きに應じた。

滿鐵は、その大規模な企畫の中に、教育のことも充分意を用いていた。沿線主要地には堂々たる校舍を建て、地方独自の教科々程を立案し、その生活に適切な教科書を編纂し、多くの教師を内地から招聘していた。しかし、各戸の家庭教育は會社の力で規定することはできない。殊に植民地家庭の微妙な教育的特色が伴う。自然社會共に環境が内地と異なる。郷里のこせ／＼した窮屈はないが郷里を離れた放縱がある。新らしい長所もあるが熱しない。舊い弊はら

くに棄てられるが守るところを失う。その上、日常にゆとりが多くて有閑に流れる。型のはまつた内地の母とは別の意味で、よい母とそうでない母との開きが大きい。——これが彼の第一印象であつた。

自由と規範とは、いつも家庭教育の根本の問題である。満鐵の母達は格別にこの問題に迷つてゐる。家に年寄りか居りませんので、近所に古いおつきあひがありませんので、墓参といふことがありませんので、氏神といふものがありますので、二重橋を知りませんので——これが度々彼の聴かされた母の聲だつた。

満州の人間にしてしまつていゝのでしようか。やがては歸る内地の人間に育てなければならぬのでしようか。今はこゝの暮しをしています、いつまでもこゝに居るのではありませんし、學校も、どの邊から内地のいゝ學校に送つたものでしようか、女の子はだん／＼年頃近くなりますと、嫁入りの仕度もありますし、どうも教育の方針が落ちつきませんで、——内地へ歸れば、局長とか、所長とかを考へてゐる夫人達の疑問である。しかも、だん／＼奥へはいると、大きい驛ばかりではない。それに、線路を僅か離れると日本の管理下でなくなる。一望の高梁畑の中の舍宅は、心配すれば四方馬賊の圏内でもある。その點々とした小さい家に、若い妻君が、幼い子を抱いて、出張がちな夫の留守をまもつてゐるのである。國勢延長の職務とはいへ、沈む夕日、また／＼星、シグナルの青い灯、今通つた實際列車の遠い汽笛、淋しさが思われる。そこで、富士山の油繪をはつた壁にもたれて、日本の子守り唄をうたつてゐる若い母の姿こそ、大連の星ヶ浦の夫人達よりも、奉天の城内の奥さん達よりも、最も彼の心をひいた満鐵の母であつた。

母は教える前に慰むべき人である。導く前に勞わるべき人である。家庭教育行脚の心は、説く前に先づ勞わることである。戒める前に先づ察することである。悩みを解決する前に先づ共に語ることである。語るよりも寧ろ聴くことである。

どの母でも、その子の母である。家庭教育行脚の要諦は、その母にその子の母たる喜びと幸福とを感謝せしめることにある。輕々しく理想の母を論じ、容易に賢母の範を示し、母を恥じしめ、母を苦しめてはならぬ。すべての母は悲願の母である。その悲願もまた、その母その子、決して同じくない。それに對し、もとより觀音三十三種の化身はかなわずとするも、すべての母の哀思の一つをでも救う一助となりたいのが、凡力行脚の念願である。

(つづく)

幼 兒 の 健 康 保 育 (六)

お茶の水女子大學助教授
愛育研究 所 員

平 井 信 義

五、視診と病氣の

早期發見(つゞき)

前回までは、傳染病を中心に、それを早期に發見し早期に隔離するためには、朝の視診について、どの様な點に注意したらよいか、というお話をしました。その一番の主旨は、子供を集團的に取扱うときに、もし不注意で傳染病の子供が一人でもその中に入つたとしたら、どんな不幸が起きるかを、皆様方と考へ合いたかつたのです。風邪とても傳染病、之に氣を許していると、次から次へと子供が風邪に罹り、その中には氣管支炎・肺炎を起して、生命にも拘る目に合う様な子供が出てくる、という事も解つていたゞけたと思います。

今日は傳染病以外で、子供の健康に何か異常があるかどうかを、どんな點に注意していたら發見できるかに就いてお話ししましょう。

私共が經驗して、最もたしかに見て取れる變化は、目の輝

きとその動きであります。目の輝きが失せ、その動きが鈍いときはその日にはつきり病氣と云えないでも、二、三日すると、必ず何か病氣が現れて來るものであります。體の病氣ばかりではありません。子供の心を暗くする様な出來ごとが子供の心を占めている時には、子供の目は虚ろであります。

私共の幼稚園で、いつもリーダー格になつていた非常に元氣な男の子が、或の日の視診のとき急に目の輝きを失つたことがありました。そこで觀察室からつゞいて見ていますと、元氣に遊んでいる様ですが、どうしても目の輝きがないのです。そこで私は保母さんに注意しますと、保母さんも變だと感じている。そこで様子を見ようということになりました、が、間もなくその子供の母親が來て、夫に女が出來た爲に、家の中に波亂があつたことを涙の中にきかしてくれました。その母親は實におとなしい辛抱強い人でしたが、その後やはりいさかいをして、顔や足に傷まで負わされて私のところに來たこともありました。遂に決心をして別れたのですがそ

の後その男の子が、再び輝いた丸い目で、他の子供たちの喧嘩を仲裁し始めた時には、本當に私共は安心したものでした。

この他、虫がわいたとか、ビタミン類が缺乏しているとか、結核菌に感染したとか、病氣の極く初期に、目の輝きが消えますから、よく注意していて早目にお醫者に診て貰うことをすゝめたいと思います。ですから、先生方も御自分の目——顔についてる目と、こゝろの目をよく澄ませて、子供たちの朝の目を、一瞬じつと見詰めていただきたいものであります。夜更しの朝寝坊で、子供たちよりおくれて幼稚園や保育所にかけてつける様では、なかなかむづかしいことでしょうが……子供たちがやつて来る前に、幼稚園、保育所の玄関に子供たちを迎えるこゝろでありたいと願います。

第二に健康の目安となるのは顔色でしょう。それは顔の色が青いか赤いか、というだけに止らず、皮ふのつや、張りがよいかどうかの判断も大切であります。之を評價するにはほんの少し熟練が要りますが、皆様の受持つて居られる子供たちについて、どの子がよいかどの子が悪いか、という様に一度評價して御覽になるとよいでしょう。

顔色の特に青い子供については後に再びお話しする豫定で居りますが、食餌性の場合と、十二指腸虫によるとき、その他の貧血、大きな病氣にともなうもの——この四つの場合が考えられます。之らを原理から考えますと、全體として赤血球が減つた場合、赤血球は普通の數だが赤血球の中の色素が少い場合、赤血球も色素も少い場合——この三つがあります。

之らに就ては身たぶから血液を一滴取て調ればわかります。

この他に血液をしらべても、別に異常のないこともありますから、顔色の青い子供を見た際、皆さんがたは、一應子供の目をむく（赤んべをしてみる）のがよいと思います。結膜が赤ければ、顔色は青くとも、血液の問題ではないことがわかります。そんなときはむしる體質を考えるべきでしょう。日光の少いよごれた空氣の中で不潔な生活をしている子供に多いことも考え合せましょう。

次に大切なのは、元氣と動作でしょう。「先生おはよう」とその子その子の表現で、元氣よく挨拶をすれば安心ですが、何だか今日は動作がのろいな、と思うと、果して十時頃になると悪いお通じをもらしてしまつた。という様な事件になることがあります。

以上三つの點を申述べましたが、これら一つ一つに就いて子供をじろじろながめないでも、一瞬で判断がつく様になるのは、たやすいことです。それは、たつた一つ毎朝々々視診の時間を催けて、一人づつの子供を見ることです。

子供に面と向うことです。そして慣れてくれば、先生方は、一々子供を右向け左向けさせないでも、直ちに變化を見てとることが出来るのです。

視診と清潔

視診が、傳染病の隔離と、病氣の發見とにあることは既に述べたところですが、もう一つ大切なことは、子供の清潔の

状態を見ることであります。

子供の清潔について知ること、一つには子供の健康との関係を知ることになりますし、もう一つは、母親が子供の衛生にどれ程關心をもつてゐるかを知らねばなりませんし、もう一つは、先生方が健康教育をした結果がどう現れてゐるかを知らねばなりません。

子供の健康との関係は、例えば清潔な子供は病氣をしないかどうか、不潔な子供に病氣が多いかどうか、という點について云われることですが、實際にしらべてみますと、必ずしもすぐには關係がつきません。つまり不潔な子供にも餘り病氣しない子供があることは確かであります。むしろこの點で早急に効果を収めようとするのが無理な話で、清潔とか保健成果は二年先、三年先に現われて来るものなのであります。

次に母親の問題であります。結局清潔かどうかは、母親がよく子供の面倒を見てゐるかどうかにかかっています。成程男の子は女の子よりも活動がはげしいから、からだも着物もよごれやすいのは當然ですし、男の子の中でも活動家と靜かな子供とはちがひがあります。とはいへ、そうした活動の後始末がされるかどうかは、母親の手にかかつてゐるのです。

いつも目やにを溜めて登園して来る子供、——恐らく顔を洗つて來ないのでしよう。子供に「洗つて來たの？」ときき、ますと、「うん」と首を横に振ります。子供は正直です。こんな子供のお母さんにきいて御覽なさい、恐らく「うちではよくしつております」とすまして答へることはないでし

ようか。その他、耳が汚い、爪が伸びてゐる。膝が眞黒、肌濡れが垢じみてゐる——みんなお母さんの養護の問題です。

といつても、直ちにお母さんを責めることはしたくないと思ひます。何故この様に子供を不潔にしてゐるか、その原因を探つてみようではありませんか。原理的には母親の賢さ、注意力、實行力、そして經濟力によつてゐるのでしよう。實際に、子供が五人も六人もいて經濟的に豊かでない家では、母親の手一つではなかなか廻り切れないものです。養護がゆき届くかどうかは、どうしても時間と手があるかどうかの問題と、或る程度併行してゐます。もとより、澤山の子供があつても、實に上手に子供の面倒をみてゐる天才的な母親もありませんが………。子供が澤山のあまり、子供の面倒がみられないときには、幼稚園や保育所で多少でもそのお手傳いをする様に心掛けたいものです。先生方も一層お忙しいでしょうが、子供たちを家に歸すときに、一寸その子供を残して爪でも切つてやりましょう。顔もふいてやりましょう。養護のゆきとどかない家庭では恐らく教育の上でもゆきとどかない點が多くみられはしませんか、もし子供にゐる問題があるならば、しばしば家庭訪問をして、母親に、教育の重點を——どこにおいたらよいかを教えたいものであります。これはなかなかむづかしいことでしょうが、繰返して申上げます様に、教育でも養護でも、家庭——子供——幼稚園・保育所即ち母親——子供——先生、のつながりが密接でないと、よい効果は期待出來ないのであります。

問題が横道にそれましたが、不潔な子供の原因についての話に戻りましょう。不潔な子供の中には、家庭で女中まかせにされているものがあります。その女中がよく注意が行届けばよいが、そうでないと放り出されている結果になります。又、母親が自分の身の廻りのことに忙しかつたり社交家だつたりして子供がきたない格好をしていることがありますが、この様な母親を上手に指導することもなかなかむづかしいことです。話をしてきかせれば「はいはい」とわかるのですが子供に積極的な興味を感じていないことが多いのですから。……。こんな場合には、母の講座などでえらい先生方の講演をお願いするのも一つの方法でしょう。それをしても母親の方で缺席するかも知れませんが。

この様にして、一つ清潔の點をつかまえてみても、その後には母親の問題が控えていますし、家庭の問題がからまつて来る場合もあります。私共は、その後関係をよく見抜くことが大切です。但し、その際「あの子のお母さんはしようがないこと！」と責めることはしたくない、又あきらめることもしたくない、私共はそれらの母親に、それぞれどんな教育をしたらよいかを考えたいと思います。

子供たちは、幼稚園・保育所だけの幸福ではいけません。ここでの幸福は家庭に持歸らねばならないのです。家庭がその幸福を素直にうけ入れる様に、幼稚園や保育所では幸福な子供をそのまま受取つてくれるような家庭であつてほしいのです。その爲にはどうしても母親教育をしなくてはなりません。

これが缺けていては却つて子供に幼稚園と家庭とのギャップを感じさせる様なものでしょう。幼稚園ではやかましくお便所へ小便をする様に云われているが家庭では縁側から庭先に向けて放尿するのを何とも思っていない様では困るのです。

もう一度申しましょう。幼稚園・保育所——子供——家庭この三者が、いつも同じ教育の線の上にあること、先生と母親とが同じ右手を握り合つて、子供の教育をしてゆくことを私共は望みたいのです。その意味で朝の視診によつて、子供の清潔の具合をみながら、あれこれ人のこと、世の中のこと、制度のことを考えることは本當に大切です。先生方にとつて考えることは何より大切なこと、信じます。

さて、どんな點で清潔の様子をしらべたらよいか。既に申しました様に、顔から始めて、手・からだ・足・と見てゆけばよいでしょう。顔は、目やにがあるか、鼻汁がでているか、鼻汁も濃いかうすいか、口のまわりがよごれていないか、耳の殻や目のつけ根に垢が付てはいないか、首筋は綺麗か、手は汚れていないか、爪は伸びていないか、爪に垢が溜つていないか、肌着はどうか、膝は………それにエプロン・ハンケチや手拭は綺麗だらうか。着物を着せ過てゐることはないだらうか。慣れないうちは項目を書いて置いて照し合せてみるか、子供についてそれぞれ a、b、c で評價してもよいでしょう。これらを書き並べてみると随分大變な仕事の様ですが然し慣れると本當に一と眼です。殊に清潔度の要點としては爪と

耳を見れば大體分ります。「爪がのびていますね」と母親に注意すると、「ついこの間切つたばかりですのに」と返事しますが、その「この間」が二週間前だつたりしますし、或は爪の方でも成長が早く、一寸油断していると、すぐ伸びてしまいます。

伸びた爪の間の垢、——これをほじくり出してけん微鏡でみてみますと、澤山のばい菌や蛔虫・蟻虫の卵が発見されます。こんな爪でかゆいところをかはせば、皮ふの中へばい菌をねじ込む様なものでしようし、従つていつも膿をもつた傷をこしらえている子供になるでしょう。又、蟻虫がわいて、神經質な子供も出来るでしょうし、鼻から蛔虫がとび出した急な熱が出た、お腹をいたがつた、と蛔虫さわぎをしなければならぬことにもなりましよう。

耳の垢も、猫の耳の様に黒々としてゐる様では、切角きれいな服装をさせて寄越しても、本當にがつかりです。母親に注意しますと、「耳はいじるのがこわくて」などと辯解しますが、こわいのは耳の穴の中でこゝはいじると危険ですが耳鼓の處はこすつても一向さしつかえないのです。こんな母親にかぎつて、耳の奥をマツチの棒や耳かきでつゝいて外聽道炎を起し、お醫者にゆかなくてはならぬ様にするのです。

秋口になると、厚着の子供がふえて來ます。上から一枚・二枚・と敷えていると五枚にもなる子供がいます。大概におばあさん子・獨りっ子ですが、肌着はすつかり汗をかいています。こんな子供こそ風邪ひき易い子・弱い子になつてしま

いますから、早速手拭いで肌の濕氣をとり、薄着にしてやりましよう。何んとかして家庭でも薄着でいられる様、指導しなくてはならないのです。既に述べた様に、風邪は傳染病であります。そして厚着は皮ふの抵抗を弱め、却つて風邪をひかせる誘因であることをきかせましよう。厚着をさせると風邪をひく——之を標語にしたいものですし、この方面のお話は是非とも母の講座でお醫者にしてもらいたいと思ひます。

以上で朝の視診のお話を終ります。大層長くなつてしまいましたが、朝の視診は健康保育の中心であります。視診がうまくゆかなければ健康保育の成績はあがりません。どうか一秒でもよい、二分の一秒でもよい——子供の一人々に面接して、子供の一日の生活の見透を立て、やつて下さい。傳染病らしい子供はすぐ隔離して下さい。目の輝きのない子供はよく見守つて下さい。耳・爪のきたない子供はその原因をさがして母親の指導方法を、つかんで下さい。

これらを通じて健康教育が着々と成果を上げてゐるかどうか、この視診によつて表れて來ます。今迄不潔な點の多かつた子供が、きちんとして來た、少し咳が出てゐると、「今日は休ませますから」と連絡してくる、といつた具合です。そうなれば本當にうれしいことです。子供たちも一層幸せになれます。幼稚園・保育所は、本當に子供たちの世界になります。それは又、次の時代を子供に託してゐる私共大人の幸せでもあるのです。

全國佛教保育大會

標題の大會が去る十月六、七日の兩日、日本佛教保育協會主催、山梨縣、日本佛教會後援のもとに、山梨縣身延山の久遠寺において催された。戰前には數回開かれたが其後暫く機會を得ず今回が戰後始めての大會であり全國の佛教關係幼稚園保育所は、勿論佛教に理解ある幼稚園、保育所の關係者も多數出席し左の如きプログラム通り盛會裡に終つた。

第一日 開會式（一〇・〇〇—一・〇〇）總會（一・〇〇—一・〇〇）晝食、協議會（一・〇〇—四・〇〇）歌唱指導（四・〇〇—五・〇〇）夕食、レクリエーション（七・〇〇—九・〇〇）

第二日 勤行禮拜（五・〇〇—六・〇〇）開會式（六・〇〇—七・〇〇）ブドー特レクリエーション（七・〇〇）午後三時解散

幼稚園小學校研究集會

（北海道ブロック）

北海道小樽市暁徳小學校で九月十一日から十六日まで北海道ブロックの研究集會が行われた。さきに（本誌五月號參照）

公示した通り、全國にさきがけて六月に千葉縣市川市の眞間小學校で關東ブロックの研究會（本誌八月號參照）が行れたのについて、最北端の北海道ブロックは寒からず暑からずの好季に六日間の日程を以て有意義に終了した。

次に幼稚園班の行動について述べると、第一、第二日目の午後の班別研究に於て研究主題一の「幼稚園教育はなぜ必要であるか」について研究し、第三・四・五日の午後は研究主題四の「ガイダンスの問題について」を研究した。三日目の午前九時三十分より午後一時まで、小樽市中央幼稚園を見學しその他は小學校關係會員と同じ研究を行つた。

參加者

指導者	東京都教育委員會指導課	專門職員	山村 きよ
	北海道學藝大學		長谷川龜雄
司會者	北海道教育委員會指導課	專門職員	奈良 一三
會員	廣島村天使園幼稚園	教諭	鈴木 ヨシ
	新幌内小學校		原 陽子
	池田小學校		小笠原力三
	札幌市藤幼稚園		田淵きよの
	めばえ幼稚園		太田 妙
	双葉幼稚園		吉田 繁
	中央幼稚園	園長	反町シズ子
	ロース幼稚園	教諭	岡部 仁
			佐藤 和子
			並原 櫻子

會員

札幌市淺草幼稚園	札幌市開成小學校	釧路市市役所	夕張市大夕張幼稚園	美唄市美唄小學校	帶廣市帶廣幼稚園	小樽市花園小學校	鐵函	汐見臺	手宮西	色内	稻穂	双葉幼稚園	道立盲聾學校幼稚部	小樽市中央幼稚園	奥澤幼稚園	廣島村天使幼稚園
教諭	視學	園長	校長	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭
大榎 巳巳	大科 和子	後藤鐵四郎	落合 靜	菅 秀基	平山シゲノ	佐川 正信	杉山 ヤツ	成澤 もと	佐藤恵美子	齊藤 幸子	江口 雪子	今藤多恵子	前田 マキ	齊藤 靜子	志賀久美子	古館もと子

の事務擔當者、保母養成所主事 兒童福祉施設における保育内容の指導に當るもの、兒童福祉施設又は兒童相談所に勤務する保母の中特に熱意ある者等で、人員約百二十名。
 協議協目

- ① 保育所の在り方について
- ② 養護施設、教護院、母子寮その他の施設の保母に關する諸問題
- ③ 保母養成計畫に關する諸問題
- ④ 保母講習會に關する諸問題
- ⑤ 保母試験に關する諸問題
- ⑥ 保母指導に關する諸問題並びに指導計畫
- ⑦ 保母の團体に關する諸問題

研究科目と指導講師

- ① 日本兒童福祉行政の將來について
 GHQ公衆衛生部厚生課長 マーカソン
 厚生省兒童局長 高田正己
- ② 我が國兒童行政の現状——
 厚生省社會局長兼事務課長黒木利克
- ③ アメリカの兒童福祉事業——
 厚生省大臣官房渉外課 齊藤勇一
- ④ 世界社會事業大會に出席して——
 最高裁判所家庭局技官 土井正徳
- ⑤ 兒童福祉施設における保育原理——愛泉學園長 キヌクリツヒ
- ⑥ 精神衛生
 厚生省兒童局養護課長 内藤誠夫
- ⑦ 養護施設、教護院その他の施設の保母に望む——
 厚生省兒童局保育課長 吉見靜江
- ⑧ ケース・ワーク・グループワークと保育
 厚生省兒童局企畫課 淺賀ふさ
- ⑨ ケースの研究討論——
- ⑩ 研究發表表

保母指導者協議會

標題の會合が十月二日から五日まで、東京都下小金井町の浴恩館で開催された。出席者は各都道府縣における保母養成

参加者有志

會から

○初多というより、小春というのがびつたりする好季節、幼児も先生も、みんな元氣一ぱいに充實して楽しいことですね。

○小林氏の論文は、長い経験による理解と同情と激勵とに富み、教えられるところが多く考えさせられるところが深いのを思います。味讀を乞います。

○鈴木氏の論文は、カリキュラムに就て、その要を明かにし、實際家の座談會を以て、微細を盡し、添えるに具體案を例示して、研究的態度にあふれています。精讀を望みます。

○和田氏の論文は、前號の序説に次いで、益々本論に入り、家庭教育の研究と共に、幼児指導の基礎として、貴重の參考を與えています。和田氏は東京體育短期大學保育學部の講義を擔當している新人です。

○徳久氏の報告は、前々號からの小山田、山村兩氏の報告と併せて、文部省主催の幼稚園小學校の綜合研究のウエアークシヨップの全ぼうを明かにしています。此種ウエアークシヨップの盛に行われることを希つてやみません。

○秋田氏の福岡大會記は、前號の第四回保育大會の記録として、岡田氏、内山氏の報告と併せてトリオをなすものですが、前號の縮切

を急いだ爲、本號で記録の形になりました。○再渡來の第二回米國教育使節團に對して、就學前教育に關し、本誌倉橋主幹の、教育刷新審議會委員としての、重要事項の發言懇談と共に、日本保育學會、大學附屬幼稚園主事會、東京都保育會等から、それぞれ提言がありました。その關西視察に際しても、それぞれの地方の保育者から熱心な提言があつた筈であります。

『幼兒の教育』編集

編集主任 倉橋 惣三
協力委員 牛島 義友
及川 ふみ
齋藤 文雄
多田 鐵雄
波多野 完治
山下 俊郎
西山 浪太郎

編集委員 西山 浪太郎

日本幼稚園協會

幼兒の教育 第五九卷 第二號

定價 金參十圓

昭和二十五年十一月十五日印刷
昭和二十五年十一月二十日發行

東京都中野區千光町一〇

編集者 倉橋 惣三
發行者

東京都文京區柳町三二番地

印刷者 杉山 龜吉

東京都文京區柳町三二番地

印刷所 第一印刷株式會社

東京都文京區大塚町三十五

お茶の水女子大學附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田區神田神保町二ノ四

發賣所 株式會社 フレーベル館

電話九段(33) 吳七二・三〇七・三〇〇番
振替 東京一九六四〇番

○本誌御購讀について注文申込その他は凡て發賣所フレイベル館宛に願います

お茶の水女子大 戸倉ハル著
 東京高師 小林つや江著

保育資料 うたとあそび

四六倍判 一八四頁
 定價 三二〇圓
 書留送料 六五圓

著者多年の経験と積蓄を傾倒し、幼稚園及小學校低學年用の教材の粹八十曲をあつめ、これを春夏秋冬の四に分類配當し、夫々の曲についての解説とこれに獨創的なふりつけを詳説したもので絶好の保育資料として各地の講習會等に於て讚辭を頂いています。
 表紙七色刷 扉等三色刷 美麻製本、最寄の書店又は本社に御注文下さい。

東京教育大學體育學部教官編
 體育大辭典

A5判 一〇〇四頁
 定價 一萬二千圓
 項目收錄 一三五〇圓

あらゆるスポーツ用語は勿論、體操、遊戯、體育學、體育史、スポーツ醫學、體育心理、體育測定、健康教育、體育人名地名、關係法規等凡ゆる體育用語を網羅詳説した未曾有の體育大寶典。

東京都文京區大塚仲町二

發行所

株式會社 不味堂書店

振替 東京六八七三九番

フレーベル式

恩物

(第1恩物より第13恩物まで)

定價2450圓
 千100圓

七箱入一組

フレーベル曰く、「兒童は幼年期となれば、其内部的本質を、色々の目的と手段とに隨つて、多方面に分割して働かせ、自分の努力によつて其本質を永久的に外部に表現せんと力むるものであります。而して兒童は又外界に由つて内界を現わし、かくて内外兩界を統一せしめんとするものであります。人の教育は此の時期から始まる」と(フレーベル「人の教育」より)。恩物は兒童の内界を外界に發表する唯一の武器であつて、而も論理的方法であります。即ち恩物に於ては立體より始まつて面、線、點に移り製作方面に於ては、逆に點に始まつて順次線、而、立體に移つていきます。兒童はかく各ダイメーションを有する物體によつて繁簡自由に自己を外界に表わし、かくて内外兩界を統合統一するものであります。

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 第一恩物 六球 | 第六恩物 積木 | 第十一恩物 環 |
| 第二恩物 三體 | 第七恩物 色板 | 第十二恩物 紐 |
| 第三恩物 積木 | 第八恩物 連板 | 第十三恩物 粒 |
| 第四恩物 積木 | 第九恩物 組板 | |
| 第五恩物 積木 | 第十恩物 箸 | |

發行所

東京都千代田區
 神田神保町2の4

フレーベル館保育用品株式會社

振替口座
 東京 38171

観 察 繪 本

キンダーブック

KINDER-BOOK

キンダーブックのフレーベル、フレーベルのキンダーブック——この繪本は餘りにも有名です。發刊以來既に通卷 250 號を發行し、全國の各幼稚園保育所をはじめ、健全な家庭から、學齡前の幼兒に無條件に與へられる代表的な繪本として積々の好評を載いてをります。先頃連合軍總司令部 C I E より發表ありましたものゝ中にも、アメリカにおいても類誌のない独自のものであるとの御言葉がありました。企畫、編集、用紙、着色、製本凡ゆる面に不斷の精進をつづけ、號は號を追つて益々良いものを世に送りたいと努力してをります。次代の日本を背負う愛兒のためのこよなき心の糧であります。

A 4 判・16 頁・月 1 回發行・定價 40 圓・送料 3 圓

新刊

實用保育遊戲 第一集

實 來 琢 磨 著

B 5 判 七〇頁 上製美本 一八〇圓 下 一二圓
 △保育遊戲の研究と實地指導のために二十數年の經驗をもち、更にその生涯をそのために捧げる著者が、保育遊戲の指導課程に基いて研究された教材集、近く「音楽とリズム」について研究された教材集、近く「音楽とリズム」についての指導方針を理解する上にもこよなき参考書である。

人形芝居脚本集

倉 橋 惣 三 序
 菊 池 フ ジ / 著
 徳 久 孝 共 著

B 6 判 一八〇頁 上製 一五〇圓 下 一二圓
 △人形芝居の保育價值については今更のべるまでもない。本書は先に出版され、噴々の好評を博した題版同書の増補訂版である。正に人形芝居シナリオの定本といふべきもの。

幼稚園お話集 上・下

倉 橋 惣 三 編
 日 本 幼 稚 園 協 會 編

A 5 判 二〇〇頁 美本 上製 各 二〇〇圓 下 一二圓
 △これまた「お話集」の定本といはれた舊判の増補訂版である。ほとんど全部にわたつて改訂増補をこころみ光茫しいやます好著となつた。

加除式 幼稚園關係法令通達便覽

幼 稚 園 制 度 研 究 會 編

幼稚園教員養成所一覽

幼 稚 園 制 度 研 究 會 編

附幼稚園のつくり方他二項

二 册 箱 入 五〇〇圓
 三 三 五 圓

發 行 所

東京都千代田區神田
 神保町二丁目四番地

株 式 會 社

フレーベル館

振替口座東京
 一九六四〇番